武徳集覧

元和元年 自正月 至五月

八

内閣文庫
和書
類 五七七五
號 一
冊 〇
函 五〇
架 四

内閣文庫
番號 和 15775
冊數 10 (8)
函號 150 11

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
内閣文庫
浅草文庫
内閣文庫調所

武徳集覧巻之十八

神社

元和元年乙卯正月朔

左京之亮士二條乃職之登之　神社

左馬之大夫西園寺乃

策貢之登之

迎藤之新年と迎玉之登之左府の大小名

登宮之　編年集成○元寛日記○坂日記

伊勢丹波の国丹波の国自分法礼之外参礼

法礼今地院殿の参礼

二日

将軍家乃御陣人数召具之　松平左馬之

なを文英院殿の霊山東へ相投　創業記考異○当代記○坂日記○編年集成
称すと記

宗対馬守義智卒年十八年　藩翰譜○編年集成にはと記

二日

公御玉體不豫　御年譜○慶長日記○創業記考異○駿府記○永井系譜○家忠日記○元寛通鑑○本光国師日記○元寛日記○編年集成○諸士軍記○駿府記○東武実録二日と記

武徳大成記にいふ　神君京師を発して駿府へ帰らせ給ふ及すかし遊猟御成あり○寛元系図

松平石見守康安水野備後守長勝松平右衛門佐勝隆二人へ給はりしとあり　柳営家譜には勝隆

東御所逗遊ましく付諸将まで寄し給ふ

和泉郡山へ赴き織部図了給ふと御出則郡山上

猿楽を書と勤　柳営家伝には慶長と寛元系図

五日

玉水に　御年譜○家忠日記○創業記考異○永井系年記○寛元通鑑○家忠日記○元寛日記○坂日記

政事録にいふ今日御座船を留御小姓衆六半

之外松平右衛門佐へも安法印後藤庄三郎同候

自矢橋御よりの申刻水口へ着御供奉長野

内膳正供奉と云々○編年集成

六日

玄亀山御年譜○寛永日記○剣業記考異○永井家記○考定通鑑○考定日記○元寛日記○編年集成○伝聞記

改手孫ゝ云郎別水口藩御申別紫衣紫衣山名御

城を松平下総守様大坂城割ニ成来候下ハ地

定ゝ云云

六日

玄奈名御年譜○寛永日記○剣業記考異○永井家記○考定通鑑○考定日記○元寛日記○伝聞記

改手孫ゝ云亀山御申別奈名御藩改次

坂ゝ下山城ゝ別紫地元二百人令入行日向

守ゝ指遣田清左衛門下知城を奈名

大坂城割来候下ハ地定ゝ云云○編年集成ハ誤ル考定山ニ作

七日

玄名護屋城ハ四年御年譜○寛永日記○剣業記考異○編年集成○永井家記○考定通鑑

一日」

改手孫ゝ云郎別自奈名紫地名御船名古屋

名御城御藩改次御藩野ニ申別

八日

名古屋城ハ宇和島城来大坂御返ニ成田民部

少輔ニ田舎ハ御城定ゝ云云

名古屋御返ニ成自郎別御地藩ニ申別御御

藩三ヶ所ハ新名ニ改ル○編年集成○地名

將軍様ゝ大坂表城割御藩ニ以後人数

[illegible]二〇九頭潤記十万成万六十万何成
石垣水底二万成万二万万〻者早速逐
雪清也被作上〻海〇故日記

九日

玉器溝 御年譜〇寛永日記八日〻記〇剣事紀考文〇海〇集
成〇永井考記〇考文通鑑〇考異日記〇元寛日記
七日〻記〇故日記

城〻孫〻云為[illegible]御所城御放鷹之
所略者〻申刻器溝石御城[illegible]
豊後守大坂城
御城刻出[illegible]
清秋城如例

武徳大成記云二月器溝〻[illegible]
[illegible]八日城外乃郊野小放鷹[illegible]
行〻〇元寛日記〇海〇集成

十日

大樹〻使安藤次右衛門佐久百河内守于器溝
告 云曰大坂城已壁壁堀矣 御年譜〇大坂城
日記〇剣事紀考文
〇永井考記〇考文通鑑〇西〻海〇海安佐久百内使〻〻〻〻八十二日
上記〇武徳大成記日上〻海〇集成日上

城〻孫〻云曰 春日為用使永井信濃〻
東百御前[illegible]刻〻[illegible]令[illegible]
十上候十六七日時〻大形[illegible]

○阿淡○武徳成○大坂日記○家忠日記追加八成附等此後と記

蜂須賀御返答ありて三度鴫野を取敷たまし 阿○府

去は壇守りし大坂船場に乗入攻て如元 剣業

記考異○大坂日記

諸軍二三人枝折不在候可究大坂二ノ丸

攻し向ひ至鎮人馬を不害 剣業記考異

天満川先度築出ありし堤を破り今有て

依て西国船出入 剣業記考異

十一日

台徳院殿蜂須賀阿波守至鎮を召して軍功を

褒せられ御感書を賜り松平の姓を称すへし時よ

御腰物 順慶左文字 を至鎮に賜る 大坂日記○武徳大成記○家忠日記追加○阿淡年譜

○藩翰譜御刀を賜はりしと記○家忠日記追加

至鎮か家臣稲田宗兵衛林能勝を召して二人に

黄金百枚を賜ふ稲田修理亮に御腰物 長光

小御感書を副て賜ふ稲田九郎兵衛岩田七左衛門尉に御腰物

延寿 小御感書を副て賜ふ山田織部佐樋口内膳に

御感書を賜ふ森甚五兵衛岩田七左衛門尉

森玄蕃は又御感書を是破を副て賜ふ

玄蕃は麻と蒙るとも 大坂日記○武徳大成記○阿淡年譜

依て御前りふか ○家忠日記追加

今度於桜島大隅表様子伝聞致候
渡邊彦兵衛殿軍勢之儀
因茲　松平右衛門佐
四月十一日

松平河内守殿より
今度桜島大隅表様子伝聞致候
陣所へ被付之列今迄之儀
被御心安思召候也
四月十一日

稲田九郎兵衛殿より

今度桜島大隅表様子伝聞
戦場へ列形貴殿
思召候也
四月十一日

山田儀兵衛殿より

今度桜島大隅表様子伝聞致
敵入被付之列今之儀
感思召候也
四月十一日

稲田九郎兵衛殿より

今度桜島大隅表様子伝聞
戦場へ列形貴殿
思召候也
四月十一日

山田儀兵衛殿より

今度和泉国大坂表様子傍輩之会し
戦場へ引出猶形勢を窺ふ条、松平阿波守
殿至て感思召候也
正月十一日

樋口内蔵助殿

今度和泉国大坂表様子傍輩之会し
防戦へ引出猶形勢を窺ふ条、松平阿波守
殿至て感思召候也
正月十一日

寺西内蔵助殿

今度和泉国大坂表御出馬松平阿波守
陣所へ敵入候ハ引出会防戦猶形勢を窺ふ条感思召候也
正月十一日

山田七兵衛殿

今度和泉国大坂表様子傍輩引出会防戦
会津引退之節形勢を窺ふ条感思召候
正月十一日

佐竹義宣へ

表之儀ハ日記ニ有

今度大坂表御出馬ニ付我儕ハ慶長

以テ梅津半右衛門尉ニ御腰物国信大塚九郎兵衛尉
黒沢甚兵衛尉ニ呉服御胴服并金子御感状
ヲ添テ賜ル 黒沢日記○武徳大成記○梅津集成十七ニ記
今度於大坂今福表防戦之刻合鑓
剰敵ヲ崩被疵手ニ条無比類働粉骨之至
感思召候也
正ノ十一日
梅津半右衛門尉とのへ
今度於大坂今福表防戦之刻合鑓
働粉骨之条感思召候也

正ノ十一日
大塚九郎兵衛尉とのへ
今度於大坂今福表合戦粉骨
之至感思召候也
正ノ十一日
黒沢甚兵衛尉とのへ 以上三通感状見ニ於
松平右衛門佐少輔ナド雖ノ臣横川次左衛門尉
去年冬ヨリ御感状ヲ授ラル 梅津集成
若林織部正宣方ハ武者奉行ノ組下ニて
伏見ノ近在陣シテ时ニ 大徳公黄金廿枚

[illegible]

松平虎之助[illegible]四位[illegible]

此時　将軍家御[illegible]字

[illegible]

十二日

御暇[illegible]二ツ今打給御[illegible]

[illegible]

今日[illegible]駿河ヲ以使[illegible]

二[illegible]御馬一疋[illegible]

[illegible]

駿河ヲ心底[illegible]

[illegible]

十三日

御暇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日

御暇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彼部之内也、若し東国乃軍士不残
唯大野御殿迄と以て細と被寄寄軍日
り拵場可堅と被定候ゝ不残を被壊
迄参る軍ゝ拵場とあり〳〵ハ拵様の場也
此儀ハ御付参ゝ出張仕候　家屋ハ出張
拵場可被壊の儀ハ被仰付ハ外拵場ゝ義也
然ゝ事ハ少誤ゝ拵ゝ拵場と仕候ゝ
加藤豊後の被仰付ハ出張仕候ゝ
日記〇若し日記十九日吉良御殿野の下ゝ仕少誤あり

十六日

十七日

右会議之常陸介上自大坂陣中ゝ京近海陸
剣業記考異〇慶長日記〇若し日記十九日之記

大徳院殿上杉家勝ゝ家臣ゝ石ゝ我内と
褒とられ杉原常陸介ゝ御感書ゝ異
二領并金十枚と賜る次因大炊介ゝ御感書
并ゝ御感書ゝ異二領と賜る　秋孫左衛門
小御感書并ゝ異二領と賜る　家康日記〇武徳大成記〇海内集
今度拵兵大坂志賀野表防戦ゝ列
渡形豊後守ゝ働仕ゝ仕ゝ感思召也

四月十七日

松平[illegible]より

今度相模国大坂志摩野表防戦に別

紙形書神妙に働対彼病に付感

思召候

四月十七日

浅田大炊介より

今度相模国志摩野表防戦に別入稿

に候歩兵四小隊を減差遣感思召候

四月十七日

佐竹義宣より東海道戸村十郎左衛門

始小隊感書到来賜り

今度相模国大坂表一戦に対

会津彼病に付参形書に感思召候

四月十七日

集成に小田切土佐守より戸村十郎左衛門に大坂表の事相伝

十八日

自大坂表山岸四郎兵衛大坂

使者山岸四郎兵衛大坂

城割渡大形如年去十六日寧和尼中納言
京都上雖　将軍家十九日伊勢ヘ立ツ有馬四郎
申言上大坂城二丸迄悉破平ス城計殘
ル由　故ノ儀ノ海ノ集成ノ故ノ記

十九日

大樹還伏見　御年譜ノ寛永ノ記ノ永井右近ノ記ノ若ノ元通鑑ノ
若ノ元ノ記ノ伊東ノ記ノ故ノ記ノ若ノ元物語ノ故ノ記ノ若ノ元通鑑ノ
武徳大成記ノ云　古徳院殿大坂ヘ発シテ
伏見ノ城ヘ入ラセ給フ上野ノ介ノ紀安藤
對馬ノ守ヲ使ヒトシテ大坂ノ西ノ丸ヲ壊
ラセ給ヒシ」ノ海ノ集成

剣業記ノ云　将軍家自ラ西陣伏見ヘ
ノ海ノ記ノ松平下総ノ守ヲ使ヒトシテ以下行ル
于今在陣」ノ海ノ集成

廿日　今日若君ノ御方ヲ若民　御年譜ノ寛永ノ日記ノ武徳大成
記ノ故ノ物語ノ剣業記ノ若ノ元物語ノ故ノ記
若ノ元物語ノ故ノ記

廿日

御鷹野　故ノ物語ノ故ノ記

廿一日

国斷伏見ヨリ発駕ス去十九日申刻
将軍家自大坂御城ヘ御入

城郭を成就因元信大名人数被殺害之
上野介安房守為御同行被殺害〻〻海○孫○拾元

廿二日

因御鷹野 海○孫

自春下為御使城彦豊後守 海○孫○拾元
○海○集成

廿三日

自秀頼為御使去因元年小夜殿
三〻月 二條殿 御備前国三 御備後 因府御使
因紅葉御拵之大〻相長卿二人被進〻
大野修理亮自〻進和歌 相三年十月去因

去年元自〻進和鷹大使十命〻〻去年元
御鷹鶴於秀頼被進 海○孫○海○集成○拾元

廿四日

大樹入二條城 御年信○家忠日記○武徳大成記○創業記考異補
○海○集成○永井家記○家康記○拾元

大風御鷹野止 海○孫

安房守自大坂来大坂乃城割之間〻元
如之外御鉄炮有 海○孫○海○集成○拾元

廿五日

御鷹野鶴乃物数〻〻大坂 海○孫○拾元

廿六日

風吹国ニ御発野止ル事

京都板倉伊賀守ニ被仰付ル

寛二年城ノ軍家入御

秋田城介実季ノ男安東太郎俊季従五位下

伊豆ニ流サレタリ 薩藩旧記○寛永日記ノ要ヲ抜キ書ノ如シ

廿七日

大樹年内 御年譜○寛永日記○創業記考異補○武徳大成記○

永井右京亮○若元拾遺○本朝通鑑○寛永日記○海内集成

此日松平伊与守忠昌従五位下ニ叙シ酒井

河内守忠行松平和泉守家綱松平信濃守

忠晴秋田信濃守俊季右田掃部守宗

各従五位下ニ叙セラル 寛永日記○武徳大成記ハ松平右京亮

忠晴ノ時従五位下ニ叙セラルト記ス

海内集成ニハ此日酒井雅楽頭忠世

右京亮忠勝ニ従四位下ニ叙セラル 松平新六郎

信綱酒井左衛門尉忠利

秋田右京大夫俊季 仁賀保

右田新六郎宗家 仁賀保

新十郎 仁賀保

廿八日

安東太郎政次御帰国野辺地ニ於テ病死

[illegible]

大樹公御越江戸　御年譜○寛永日記○武徳大成記○創業龍芳文
補○永井右兵衛記○芳元通鑑○寛永拾遺○芳元
日記○徳川記○八代記

将軍家駿府ヘ御上洛　元寛日記

吉田御通家御齋野勘文ヲ外新勘ヲ先
ヲ以ヲ御○徳日記

廿九日

濱松ヲ御通ル　御齋野新勘ヲ先ヲ以ヲ
海道集成○徳日記

将軍家水口ヲ御通ル　元寛日記

晦日

東別中泉ヲ御宗都自　春日局高使関友
右馬佐ヲ使ヲ則石御前石高使ヲ云　春日局云
去廿八日京ヲ二条御系和御動生御止宿脇系
ヲ以ヲ外見ヲ話ヲ天ヲ去廿ヲ日ヲ板
城別雪ヲ為ヲ来ヲ板則関ヲ内陣ヲ中ヲ上如
来城中話ヲ人一人ヲ不ヲ知ヲ言上ヲ云
大坂城中ヲ意ヲ破却ヲ御ヲ有ヲ御ヲ対面ヲ為ヲ
信ヲ長ヲ御次ヲ御齋野ヲ以ヲ被御ヲ通ヲ　御日記○武
海道集成○徳日記　徳大成記○
京ヲ板ヲ伊ヲ賀ヲ為ヲ花御ヲ来ヲ十ヲ云ヲ去廿二三日

く此播磨攻御後室御姫子御疱瘡なり 西の丸○
将軍家亀山へ御出 元寛日記
去る十六日書院并御伊豆守殿へ命ぜられ
伏見乃城と称る牧野因幡守殿伝成今度小
堀の御普請ありて卒く大坂表へ出陣す
毛利右兵衛督殿へ奉書を呈る 海録集成
二月朔日
中泉御逗留 ○西の丸
本多上野介自大坂帰来 先大坂城制度殘
ありて此日第二九二九城川櫓お造意為也
仍て城中城櫓の際上下往還被仕上ニ成る
奥御座間御窓後 西の丸○武徳大成記○海録集成三日のうち
将軍家薬名御止宿 元寛日記○坂日記
二日
将軍家宮御止宿 元寛日記○坂日記
三日
大樹玉尾及名護屋を臨于義利くに亭賜長光
くに刀及則国くに短刀義利 ※長光くに右刀長光
くに刀及来国光くに短刀 御年譜○和田日記義利※和泉刀
長光服部中関光と記長光くに刀とある
※長光○乗井左兵衛御年譜同○海録集成同上

中泉御逗留 脇ノ脇

巳日

指于中泉 同于此 六日 ○御年譜○創業記考文補 六日御逗留と云々 ○寛政日記○永井文書記

中将殿於駿河 将軍家為御馳走早速令下

御馳走能く被申付 駿府可有御請旨被仰

二日 脇ノ脇○脇ノ集成○坂日記

将軍家右同御止宿 云々寛日記○坂日記○脇ノ脇ノ集成

御出馬浜六帝安倍川 太帝監使と云々

伏見と云々 脇ノ集成

六日

今日自 幕府為御使井上主計頭

将軍家被仰 御器物明後七日 両中泉

御対面 被仰付 上野介被上野介

仰云 御旅館以下用意 仰付 御意旨

以下可新設 被仰付 脇ノ脇○坂日記○脇ノ集成

六日

幕府遣兵湾松平 脇ノ脇○坂日記○寛日記 六日遣松平 六日遣松平 六日遣松平と記

七日

大樹立于此地 同揭

乙 御年譜○寛日記 中泉と云 大神宮御備 大神宮御備

○創業記考異神皇正○海外集成○永井考記○考古日記○坂日記

政事総攬云々　将軍家渡御中泉之節御脈拝

有於奥之方　大御所御対面有佐渡守同

上野介石御前前御密談被別紙

石御前前御密談

奉行伝右御同人一人宛也御対面奉行酒井

雅楽頭土井大炊頭本多佐渡守同三阿安房

守水野監物酒井左衛門尉榊原小平

長谷川藤五郎伯耆守之外七十余人死亡云々

今度於京都被仰付之輩

○武徳編年集成日○海外集成○坂日記

「京都御所」

幕府中泉令退去於中村左川左衛門　○海外○武徳大成記○海外

集成○坂日記

八日

京都御所御普請奉行

別紙良恕院殿御病御遷座御

海外集成○御法号元二月四日○良恕院殿御遷座

二月四日○元和元二月四日○御病状悪敷

二月四日○元和元二月四日○御遷座中京西洞院

遷座之事○慶長記○宗栗記○坂日記

九日

古御公国中乃城へ御移之事

○海外集成

中泉御逗留 政事録○政日記

右徳云御駕中ハ駿府乃城へ入御なく

清水乃旅館小ゟ出ル 海之集成

十日

玄於相良 御留留于 御年譜○東方日記○剣業紀考異補

世二日 二当作一

政事録云相良ゟ御姫様ゟ清水御殿

新ニ造営」○政日記

海之集成云供奉之人数例乃清水殿の内

小知行ニ之余ハ所々中泉より先達て駿府

御ゟ下ると云云

十二日

玄于田中 留于 御年譜○東方日記○剣業紀考異補

一日」

政事録云田中ゟ御発駕九ツ時 代友 武御船

○政日記○海之集成○実政ハ駿府の町司ニて上郷乃租税

ニ付出ル

十四日

還入駿府 御年譜○東方日記○武徳大成記○剣業紀考異補○

海之集成○政事録○永井尚志記○尚志日記○村越茂右

世八日記○元寛日記同上○御東照宮実紀○政日記

同日 大樹還入江戸 御年譜○武徳大成記○剣業紀考異補○

海之集成○永井尚志記○尚志日記

十六日

自今夜御夜詰之士御敬免 海○政事録○海○集成○

政日記

十八日

播磨御城受取為御用被遣 改の儀○海の集歳

御書翼之儀ハ記○略日記

廿六日

自大坂織田右京使之村田右兵衛ト云来

七度不意筆啓之御城中ニ而ハ右之儀ハ如

平重御祝賀ハ八世度大坂ニ而ハ京堺ハ竜

和至度ハ以京之上野介被下御云ハ何宮志

次ハ可有之被御右侍 将軍様へ今間ニ而ハ

三月 改の儀○海の集歳○略日記

廿七日

今日越後少将殿御用ニ江戸御留ニ成之

改の儀○海の集歳○略日記

廿八日

家上駿河ヲ自江戸為御用人来府 改の儀○略日記

三月

自後花御来去廿二日晩松平右馬頭

疱瘡死去ニ付 京上野介言上今参ハ則

今元武蔵ヲ英勇表右之許へ 表右之密為

御使系仕ニ可付為被御使 改の儀○武徳大成廿七ヶ年と

記○略日記廿七日と記○海の集歳

今日最上駿河守御国人城物部国寄老坂上
紀伊守出御前[illegible]
[illegible]

廿九日

村上周防守清[illegible]伯耆守御国人[illegible]

三月朔日

大御所南殿出御日野唯心寺外記士[illegible]

二日

幕府為御使[illegible]大炊寮上[illegible]御前[illegible]

二日

大御所南殿出御日野唯心寺外記士御礼[illegible]

六日

京都板倉伊賀守[illegible]大坂再度逆[illegible]企
[illegible]番大[illegible]御[illegible]
[illegible]大[illegible]浪人[illegible]
集り[illegible]京都[illegible]焼[illegible]
[illegible]大佛再興[illegible]是代の木[illegible]大坂[illegible]
[illegible]

内一言上　寛元拾遺

六日

家康様駿府御進發尾張国熱田へ御上洛
之企也去年甲斐国へ御出馬之儀武
田勝頼及困窮之由被聞召付而
可有之哉と各批判之処家康
之儀ハ御上野介殿へ
被仰付ハ御内儀ハ
被仰付ハ時分柄ハ
御内儀ハ百日
御内儀ハ形式相
あらハ無疑風味能出来る

二方へ載之御書ハ去年之御内儀ハ
お様ハ完之間ハ度々之日名護屋ハ
献之儀ハ市之上ハ
行平領之ハ
清機嫌能
之ハ
御内儀ハ
家康様御物分
清兵衛遠州長篠ハ一戦之時分人数之

法師ハ人数ヲ遣シ信長ヲ攻ムルニ法師
ハ遂ニ勝利ヲ得タリ或ハ相模小田原ヲ陣シ箱根
彩雲或ハ濃州岐阜ニ来リ合戦シ度々ニ為
彼人力ヲ以テ計策ヲ施シ勝利ヲ得ルニ
因リテ日本ヲ遂ニ外ノ怨敵ナキ為ニ
何ニ自然ニ成リ行キ上退ノ地勿論ナリ
上野介ヲ外シ西ノ方ニ下ル言語也 村瀬氏ノ
十三日
秀頼為御使常ニ院殿二位局大蔵卿秀頼
素来民部少輔系府 海○脱○菊鶴信○昭日記

十四日
阿茶局為本多上野介為御使被遣于常ニ院殿
時ノ如仕ル可キ旨ヲ被仰出 海○脱
奥平忠隆ヲ伝留平六十一歳 菊鶴信○寛右日記
○海○慶長三月十四日
と云ヲ長

十六日
秀頼使来 青木民部少輔 毋以乳母為使 御年信○寛右日記○創書記秀頼
大御所ニ面会ス大御所自秀頼為御使青木民部
少輔公御前ニ献金襴十巻并秀頼奉清書
自ラ御礼ヲ為ス御盃十枚秀頼ヲ御用 [illegible]

令入御於秀頼御母儀の御妹常高院殿二位局
大蔵卿局・正永尼御母儀秀頼御母公淀君使也二位局
ハ淀辺流浪ち御大義ハ大野修理亮御母正永尼ハ淀辺
同義仕り御也　○淀辺
武徳大成記云大坂乃書来民部少輔一治和ゟ
常高院大蔵卿二位局・正永尼駿府へ来ル
ちなるの悪だくみ駿府へ御ちゑ
なる且日去年の云孔小河長橋局の云民逃散
して農作不相なる故ふ大坂の諸士扶助なり
加ゝ頼ハ熟計の如くとり　神君三媼ふ

命して田尾局宰相婚姻已ふ上ゝ余尾局
徒ん上と欲媼ふ上ん尾局ふ徒ゝ徒ゝ且関東の
婦女ハ礼儀ゝ習ふ者なり媼ふ和睦して能婚礼を
調ゝしゝ若ハ余復尾局より東海ふ動て
河長橋局の民事上と撰ゝて厳ゝ政令を
加ゝ定ゝと宣ふ書来ル尾局ふ徒て命と
徒ゝ也　○海ゝ義　○黄瀬川　○伝り記　○光長卿記　○二月ゝ
明日内侍紀伊ち伝品ふ命ゝ尾ヶ浦乃
城ゝ上ちゝ先ゝ玉ふ三宅越後ち庸伝男大
服亮康盛仁賀伝ふ云庸伝ふ　云命ゝ奉ゝ

遣乃城之勢云清水 東寺日記○武徳大成記二月之記○海
寺田於使者資宗小下野国深草乃地二百
石加賜をらる 安芸藩士 府正次小 宋地大
百石加賜をらる 東寺日記○海之集成寺田毎友同
とあ 百石加へ玉ひ〳〵る記載るのう

十六日

東国ハ秀頼拾万約を復して又干戈小及ふ
東小国乃法物を解散ふ信玉の軍勢を復せ
ふ〳〵ふ〳〵たり 教文通鑑

自京於板倉周防守京大坂の次第お御京

中上 函ノ録○海之集成○坂ノ記

十七日

松平隠岐守自京所京府小帰国之力
御乃ち玉 石御前 去年陸奥後京都
遣函ノ録○海之集成○坂ノ記

十八日

幕府乃御使 石井大炊頭京府御家従松平
英俊乃去十二日死去ふ 飛御乃来御舞者
地函ノ録○海之集成

廿日

蜂須賀蓬庵御国人阿波守又也　故事○阿波記

廿一日

大蔵一覧板行ニ成ル御作者丹波丹後守○孫

廿二日

内蔵寮刀剣奥ノ文ノ所作上総国住貴の地

ハ〳〵一万石ヲ給フ　黄薇傳

自今日府中一浮世踊と歌舞人生ル

波風流是日浮世踊始ル　孫○武徒

大成記月ヲ云記○海子集成

廿六日

成瀬隼人正誠茂古屋城ハ宰相殿御御祝云

也淀野記伊与幸長女也　紀伊守生ル時

作出ル也　故事

廿九日

自幕府右衛門佐井上主計頭ニ命ス府御密使

故事

晦日

浮世踊頻也大神宮ノ祈願下ル京人

於花火花ヲ浮世踊ト制ス　故事○孫○武徒

神君ニ民ヲ感ス事ヲ思ン　徒人成記

ト祭ヲ〳〵むと記月ヲ云ル○海子集成同上

卅春

松平信吉伏見城ヨリ　黄瀬信

松平左馬ノ書状ニ遠州浜名ヲ玉ヒ之事

文月左馬ノ補ノ雅小賜ヒ　黄瀬信〇文禄日記二年正月廿日ノ記〇慶長日記廿日

上記

二月朔日

如例法候御礼ノ儀

酒井雅楽頭ノ井大炊助命ヲ受ケ織田乃

大名小書物ヲ受ケ

急度中人ノ大坂ヨリ京人ニ男女幼雅

ニ若ニ如キ下ノ方ヲ指上ル事

人数ヲ曲事ニ仰付ラレ人質

肝要ニ存ル旨ニ候ヘ共

二日

二月朔日

酒井雅楽頭

大炊助

慶長日記〇文禄元年拾遺

井伊掃部頭松平下総守ヲ以テ京ヲ出ル

ニ付ル小陣取王城ヲ警固ノ仕ル旨　慶長日記拾遺

武徳大成記ニ云京師ノ町民大坂ノ云ヒ集ヘ

ル人々大小ヲ捨テ頭巾ヲ脱ス馬爰宿ヲ離

乃山寺ニ難ヲ避ル人ト成ル大坂ノ云京師

ヲ踏ルヒ帝闕ヲハ犯ス者ヲ以テ乱賊ト

禁裏仙洞小運の妻帷と広郷の第宅に託して
東西南北小奔走して擾動すること〻
神君京師の騒擾を聞き幷伊勢路を考
松平下総守忠吉を使として
京師を警衛せしむ蒲生忠郷
〻浪の間〻に捕亡を捜索せしむ
松平源次郎忠吉勝山城をさらし〻し月日を記す
○寛永記○故事集成○元寛日記の誤か

二日

自大坂下向の女中起居復旧
○孫○海○集成
○故事記

片桐市正御目付大坂と引籠故駿府に引越
海○集成○故事記

四日

聞秀頼又徳川方為討く出駿府江田中 御年譜
日記○政事孫○武徳大成記○永井右京記○芝元通鑑○芝元拾遺○芝
○海○集成○元寛日記○故事記
剣業記考異補云 広駿府と御出田中 広
義直を婚礼の為尾州へ御越被成との沙汰也
形宜を供奉
供奉〻御護を行ハ広田三左衛門保政今右衛門
御給を切ハ大久保長安右衛門 初ハ平助右衛門 長林 和泉守

五千石御手鉄砲小林庄兵衛根来組
百人御鉄炮支配成瀬隼人正正成初ハ小右衛門
百騎江戸衆男〻同心百人白地黒紋男〻
外内藤修理亮清成与力廿騎同心百人
青山常陸介忠成与力廿騎同心百人御先
手弓鉄砲頭五騎廿騎廿人鳥居七左衛門十騎
廿人御先鉄炮頭内藤十郎右衛門十人白石
市左衛門十騎五千人〻外ハ使番小栗又市
三田源次郎ハ鉄橋ハ本多上野介正純初ハ弥八郎
大番組三組之外阿部備中守正次水野

隼人正忠清組ハ歩行ハ松平豊後守忠利組
此外番衆三組関東御入国ニ付三組ハ御殘
番ニ成ル〻ハ供奉すべく〻被仰付 元寛日記〇寛永拾遊御国元番を
勢ヲ本多作日向守忠政ハ十騎ハ本多佐渡守忠刻ハ使番
三田源次郎ハ十六人内ハ内藤甲斐守ハ八人の八字ハ野年人正忠清
和六組ニ成ル日

薩摩侯奥方ハ弘加藤肥後守忠広ハ内藤甲斐守
忠政細川内記忠利ハ酒井右京亮忠世ハ高田
船橋ハ列加藤田中ハ内〻先立ち〻ハ
内記ハ〻ハ〻ハ〻ハ船と第日被仰付 元寛日記〇寛永拾遊
水戸中納言 後ハ水戸中納言光圀卿 駿州の御留守居

元寛日記○愛元拾遺○編年集成

福寺西則八関東へとゝ先ら多賀藩信

茂雲三百虎遣ハ初張し定の城柵修理を　三百年記

○三百年

仍紀○西本三百虎紀○寛文九日記

右徳院殿御書を茂雲三百虎ハ賜る

書状を祝ゝ大坂表ゝ紙子入箱中柳箱

を酒肴ハ初ゝ　御和紙日ゝ後府法立て遣ハ

右ハ次第寄御ゝを紙ゝを御ゝ

道遣ハ三百殿ゝハ初ゝ思召ハ

五日世使を初ゝ定　其方ゝ御ゝ

六日

玄蕃川御年譜○寛文九日記○剣書紀考証補○永井玄蕃記○寛

元通鑑○略ゝ略ゝ略ゝ略ゝ遣ハ遣ハ遣ハ紀○元寛日記

伏見町奉行長田長左衛門一通し状永井

右之後茂雲三百初御前被度大坂以ゝ外驚礼

京近騒動ゝゝゝ　略ゝ略ゝ紀

六日

六日

茂雲邸衆ゝ

玉中泉 御年譜○寛永日記○武徳大成記○創業記考異補○永井家記○文元通略○元寛日記○備考○集成○村瀬氏古田中
御止宿之儀

政事録云中泉元御所自 幕府御使板倉
周防守重但馬守中 [illegible]
故被付置此○故り記
美濃尾張三河伊勢小人数使人遣ス相遣
可進發ス由ヲ上野介殿〻国〻觸〻ヲ
右御公方ヲ駿府ニ第ヲ揚る
一書 酒井左衛門尉家次ノ組
松平甲斐守忠良宿豊ヲ出豊川ヲ渡ス
若林ヲ渡ル水谷伊勢守勝隆仙石右京亮秀久捕ル人
仙石人和ヲ以澄相ヲ大脇荒武流
二書 左文左雲ヲ加ル組
三河国ヲ信長秋田城介実季浅野弾正長政
松平右衛門督忠吉六万石ヲ渡ス植村主殿頭家政
次ニ指出ヲ勝政一色三河守頼重
三書 榊原遠江守康勝組
松平丹後守康長小笠原兵部少輔秀政
信州飯田ヲ堀尾吉晴
丹後宮津ヲ京極丹後守高知

正書　左井大炊助利勝組
[illegible]
合大学助御改小条久左衛門利由良信法名[illegible]
[illegible]
大書　酒井雅楽頭忠世組
牧野[illegible]
松平伯耆守長房　細川玄蕃頭忠興
稲垣平右衛門定長　[illegible]
右又組ニ被仰付候ハ[illegible]
右陣之内御先陣ト[illegible]

今ヲ[illegible]
動右馬ノ用改ヲ[illegible]

七日

玉吉田　御年譜○寛永日記○[illegible]
[illegible]

八日

玉[illegible]勝　御年譜○寛永日記○[illegible]
[illegible]

九日

玉長[illegible]　御年譜○寛永日記○[illegible]
[illegible]

相模為陣進進中上杉公則師信と記○村城之伝に八九日演松十四左国内一宿十日間
及長信内伯十二日尾張名古屋古名と記○武徳大成記十日尾張名古屋と云云と記

海を集成と云名古屋城中本丸を外る因館

○又師宮小路に師帰る

駿府を師立以来大坂城に相模出馬

方原進於元師陣舞あり　剣業記考証補

十日

大樹帥公初江戸に玉神寺川　師軍備○家忠日記○武徳大成記に出有の此と云記○永井
芸州記○芸州通鑑○剣業記考証補大成記同○家忠日記日上○此家日記
○坂り記日上○海を集成○元寛日記

秀忠様御陣押に御次第一書今度中納言家勝
二番佐竹右京大夫義宣三番大炊助忠吉書

上杉小田原に為参陣の書師旗を御陣代大名頭と
押に第相山押掛り時分　秀忠様江戸に出る
の通路に関大坂に御出馬と遊この所
成敗豊後守に侍と名護屋に作上り
家康様に返答を酒井左衛門尉忠世
に使者の事　八日男左衛門尉忠世
秀頼　十四日佐和山の御帰り　村城之伝
会我八　幡軍家出馬之伝○剣業記考
御旅館　幡軍家の御使浅野弾正忠長政
幡軍家御使　と言と記○酒井家世伝十七日水戸の
佐小性組書状大久保右京亮教隆永井信濃守
書改日下総国関宿　植村志摩守板倉周防守

山口伊豆守盛勝豊後守久保主膳正幸信次
鹿渡人兵庫助合三組ニ成和泉守水野監物
内元松平右衛門尉定正源左衛門尉内藤安信
注一番松平周防守忠吉次番松平伊豆守信綱次
水野藤八郎忠善源左衛門尉酒井左京亮次ニ枝
仁作守昌右衛門尉小笠原勝右衛門尉
又七郎忠投靭負源七郎永田善右衛門
忠勝右衛門尉青山善左衛門尉忠俊内藤人永源左衛
金森内匠頭忠政内藤紀伊守長頼
成瀬隼人正忠政内藤左兵衛尉長川合左衛門勝勝
仲野右衛門尉石川長三郎幸利仁右衛門
次右衛門川口長三郎幸利仁右衛門勝成人村左衛門安茂
清左衛門尉定勝源左衛門尉中津
勘右衛門村瀬左兵衛尉勝勝源左衛門尉
十左衛門利重石川長三郎石河三右衛門清口外記
常右衛門永田左兵衛尉阿部仁兵衛尉
右衛門内藤長右衛門尉
正信源左衛門尉
小浜久右衛門内井左衛門尉政重長谷川左兵衛

先手騎送
備者集成之公御旗奉行二枚半左衛門昌吉同代
越中守勝永御使番竹本伊勢守勝千之助康勝小林
勝之助正次多門達広冊信清永田右衛門
主利大久保書院番頭八阿部備中守正次同主水正
正次小姓組番頭書院八番山伯耆守後水野
隼人正大橋桂半織部守定勝花畑右兵衛水野
監物大久保井上主計頭正就成瀬豊後守正武
持弓頭内藤右衛門正主持筒頭青山右近亮幸長
持弓鉄炮頭其外之面々永井右衛門

主殿頭安藤右衛門尉正勝松平丹後守
之助正次青山今右衛門氏信細井今右衛門勝吉
布施孫兵衛主殿駒木根右近利政兼松源兵衛
正成本多縫殿助使番中山勘解由照守
村越茂助主殿並右衛門尉成次青山主殿
次郎兵衛長正田中大夫主利青山石見守清長
石川又四郎政信稲葉正成氏長半礼右衛門
勝成今村彦兵衛重長中川市右衛門大岡勝
渡辺市郎兵衛忠久大久保右衛門正俊小沢瀬兵衛
正主徳永孫市郎右衛門安藤治右衛門正次内藤左門正主之又

[illegible]
白元[illegible]木九[illegible]日次木村源右衛門[illegible]加藤
浮織則勝歩卒の[illegible]阿波[illegible]松平
出[illegible]利[illegible]次三井[illegible]
[illegible]神谷[illegible]七郎[illegible]小野次郎右衛門[illegible]
又六郎[illegible]
江城[illegible]大[illegible]國[illegible]蒲[illegible]野[illegible]
家上駿河[illegible]新[illegible]
[illegible]不政長酒井[illegible]長[illegible]松平
丹波[illegible]江城[illegible]町[illegible]

十一日

大樹[illegible]沢 御年譜○寛[illegible]日記○永井[illegible]記○文元通鑑○元寛
東海[illegible]城拘御[illegible]代[illegible]
[illegible]元寛[illegible]記
大坂乃[illegible]堀及[illegible]一[illegible]
[illegible]軍[illegible]
東海[illegible]
金[illegible]

先帝の院二位尼と云て大坂の海に入給
西永尼及其外の人々師に付て命を捨む 武徳大成
記○海の集成○坂日記

十二日

大樹玉小田原 御年譜○家忠日記○海の集成○永井伝記○
寛永日記

宰相殿御同宮自魏田御輿入儀を輿奉
挺て上洛 如房四拾人長持三百棹宰相殿
自御同宮被参 二の丸御腰掛十領同宮殿
御母殿御腰掛十領 二の丸の御腰掛
元寛日記 海の集成○坂日記○海の集成
元寛日記 海の集成 元和編年集成 浅野記 幸長女し

十三日

為参賀日嫁娶の車出臨于義利亭 御年譜○家忠
日記○創業記

十四日

大樹玉三河 御年譜○家忠日記○永井伝記○参考元通
鑑○元寛日記

今日自大坂有京同名武家の系別生御元
大坂の城内浪人三分の七組の内大野修理
後藤又兵衛一組木村長門守後藤庄兵衛
大野治長 御名御手洗 一組大野主馬長男我部

高間少毛利豊前守伝不参ニ付一通ニ仕ル

[illegible]○孫○武徒大成記○偽ヶ集成○脱ヶ記

十四日

公長復成立大頓　御年譜○寛永日記○剣書紀考ヶ補○脱ヶ記○脱ヶ孫ニハ別而藤今日御延引ニ付出家

二日ニ而記　大御所丸殿御十五日ニ別長復成御自作成御年記

中別来長吾郎ヶ記

同日　大樹玉清水　御年譜○寛永日記○永井ヶ考ヶ元通鑑○元寛日記

十五日

玉伝和山　御年譜○寛永日記○剣書紀考ヶ補○武徒大成記○八月の日

[illegible]○寛永日記○脱ヶ孫ニハ来長吾郎ヶ記○元寛

日記○寛永日記○脱ヶ孫ニハ来長吾郎ヶ記○偽ヶ集成日記○脱ヶ

同日　大樹玉田中　御年譜○寛永日記○永井ヶ考ヶ元通鑑

○偽ヶ集成○元寛日記

十六日

玉永原　御年譜○寛永日記○剣書紀考ヶ補○永井ヶ考ヶ元通

鑑○元寛日記○脱ヶ孫ニ来長吾郎ヶ記○村徳ヶ云日記○偽ヶ集

成日記○脱ヶ日記日記

自家政義御御中ヶ大坂の儀去十二日ニ

金銀信濃人武具ヶ吳用意御御騒ヶ中

来人日寄長成若古成御進参ヶ来ヶ行ヶ

孫○脱ヶ記

同日　大樹玉鷹川　御年譜○寛永日記○永井ヶ考ヶ元通

鑑○偽ヶ集成○元寛日記

十七日

玉鷹所　御年譜○寛永日記○剣書紀考ヶ補○永井ヶ考ヶ○寛

元通鑑○元寛日記○脱ヶ孫ニハ来長吾郎ヶ記○村徳ヶ云日記○

○後日記

同日　大樹公新兵御年譜○寛永日記抜萃○作○永井伯耆守日記○芳元通鑑○海録○集成○元寛日記抜萃

三作

茂賞高麗小御書を賜る

書状を被為遣候事

物文　御書小法度被仰渡候事

今度上使十四日より八月十七日

茂賞仕之事

上使二三日ハ御ゆるし

上使迄御逗留

十七日

御暇

御年譜○寛永日記○剣豪記抜萃○武徳大成記○永井伯耆守日記○芳元通鑑○海録○集成○村橋芳左衛門記○法士年記○元寛日記○芳春日記○高麗記抜萃○日本史料

茂賞御和歌ものの

寛永日記○海録○集成

十八日

入洛

御年譜○寛永日記○剣豪記抜萃○武徳大成記○永井伯耆守日記○芳元通鑑○海録○集成○村橋芳左衛門記○法士年記○元寛日記○芳春日記○高麗記抜萃○日本史料

政事録○公卿列参陽明殿

大津御京船賜る

手別同御舟揚らる

可勝外公家衆中所々参る

為御迎ニ被仰付候御二条城宇治殿中ハ殿御
入洛」○廿九日
為就乃中御機嫌伺ニ秀次公被為出奉拝
関白殿ヲ御丹波ヲ御ニ
使御乃丹波ヲ去頃二条和ヲ集聚府依御
玉長護ヲ被御海上ニ京御上洛ヲ御
如常ニ上ル御御陣ヲ体ニ如ニ同上ニ
京ニ可申御迎ヲ上ル薬日依ヲ御迎
関日　大樹玉長寿　御年譜○寛永日記○永平寺記○若元通鑑○元寛日記
浅野弾正長晟泉長政浅野川ヲ陣ヲ大野

御弾正ヲ御年大野茂高ヲ村中村長吉ヲ佐野ヲ
玉ヲ一揆乃云ヲ伝ヲ長晟ヲ陣ヲ襲ヲ長晟
誘ヲ中村ヲ撓ヲ大野ヲ殺ヲ長ヲ依テ一揆ノ
賊徒ヲ退散ヲ　寛永日記

十九日
大樹玉熱田　御年譜○寛永日記○永平寺記○若元通鑑○
元寛日記
為軍家熱田ヲ御丹ヲ下ル江日市ヲ
若御方ヲ於松平武蔵ヲ内家同次男
三太郎　今号松平武蔵守　系図ヲ伝道ヲ一町人余
除ヲ始ヲ立ヲ元ヲ二太郎　鳴海ヲ　寛永伊藤
例り候

来たる御好と白砂小間られて三方師とを
はなを菓大脇お捧ゝ御前ゝ来る則三方師と
出膳ゝ上ふ盃をとられ能文小鳥幸り如此稚子
乃東行幸若ゝ徒男盃をとり惟とゝ中堂来
とゝ延寿乃出服をと三方師ゝ上又大軍
日ゝ左衛門尉元ゝ母子下向乃頃あらんとて
上使二人と副られ武蝶三驛路の事と命
ら彼信ゝ長途聊煩なし　去元通盛〇海〇長成〇
三方師を菓なりと左見ゝて乗ゝ下向すべし　利隆の家人僧ゝ二男

大野を彼る左御前前出兄衛理不意ゝ手負乃

人也ゝ下糸痛ゝ落ゝ又為紙取ゝ中政言上ゝ走

大坂乃〇孫〇海〇長成〇坂り記

廿日

大樹五山　御年信〇寿ゝ記〇永井ゝ老記〇為元通盛〇海〇
長成〇元寛日記

松平陸奥ゝ毛利元就ゝ加為ゝ上洛乃〇孫〇海〇長成
上松中納言宗勝行逢ゝ西京京ゝ大関恩顧の伊兵衛ゝ為ゝ
為ゝ平野遠ゝ為ゝ為ゝ東武ゝ為ゝ毛利甲州ゝ加為ゝ長
人の疑ゝ避ゝ微服ゝゝ武陽ゝ為ゝ依ゝ為り俱ゝ列ゝ上京ゝ
ゝ為ゝ〇坂り記

廿一日

大樹入彼見城　御年信〇寿ゝ記〇為元成記〇剣業記考補
〇海〇孫〇永井ゝ老記〇為元通盛〇為元拾遺〇為
虎記〇為ゝ老日記〇元寛日記〇坂り記

奥羽〻軍勢ハ未集
なれども先師上〻事
[illegible]
[illegible]紀為師使[illegible]
[illegible]元寛日記○村松[illegible]
[illegible]為師代松平源後[illegible]
丹後[illegible]井[illegible]城[illegible]

廿二日

大樹来于二條城而謁[illegible]
[illegible]○村松[illegible]

[illegible]

二条城御警候[illegible]
候御[illegible]
[illegible]
御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

廿二日

大坂[illegible]
中井[illegible]

去年攻城の時中井太郎攻具を作りて城中に寄せ
矢ぐり板に秀頼を悪くせんと焼殺る 武徳編年集成 ○八月廿四
大野治大学と幸村南堺に焼き彼合
市店皆焦土となる 毛去年堺を焼て
東軍根強く攻城に使あり事と憐れむべし
吉水軍九鬼長門守勝山陣
民旅宮殿を焼き兵庫に帝伝勝を船に乗せ
大院と発し陸に上り
上て大坂に逃げ 海内集成○武徳大成記共に上記

廿七日

帝光院殿二位局為御使都大坂に参洛
被参又大野修理亮母大蔵卿局波辺内蔵助母
正永尼母人大坂に下向為被作出別人数大
坂と城に籠る青木民部少輔ハ被作相模守三郎
左衛門尉ハ被作伊賀守伊賀国に住する所
従并民部寄宿の町人国に帰す為に沈る
孫○切り死○筑紫編年○若元直記○村瀬元右ハ大坂と伝聞
此所使ハ如くそのまゝ秀頼一命を乞ハ
一命を乞ハ如くそのまゝ秀頼一命を乞ハ
武徳大成記と云 神君文帝ヲ流二位局をそ
大坂ハ還らしめ 去年の云孔上大坂

の上縣民度遂敬して農収あることなしと云ふ国の
ものなり然とも和泉と成て盛衰を伝ふ事ハ
流浪人を集て故ありきを
を拾ひ小物作の用そなへ物大坂を繁らかれ
大坂の蓄積日々耗月々乏して必空匱に到
べし又史大坂の云士民藝を習ひ云奥を学て
競て我の仮となりて事世方ふ作なりて邦国
の表に為変且て至ること安坂のあり様
なり史云ふの和泉ハ岩城厳重なれハ秀吉
年号吳ふ(ん)や起とい(ふ)云ふ時説

都大坂の城と為て郡山に移て世乃疑を避
ら(ん)と郡山ハ和泉の府城河内長橋長ハ民敬て田荒て
一毛の収を得ること能ハ農業旧のあとくハなり
加し偽て和州と以て易らんと大坂をハ
を為を以て城壁を治ひ治て旧業に復
をらるべし物作ハ毎象お和て米方を支
なりと宣ふ又大坂々西米とも大坂に向む
事ハ書家師て拘留て繁昌て去ること
物ものもとも
巻之拾遺云共三日　大阪十万様要万代小玉

幾至条の書を以て流浪義元二郎と云秀郷公
毋俄へ伺を以て云く先日伊東を以て手紙
との使小を以て云くとも云ふ事なしと
云へり故東方より使者
物軍象大将威光の事先軍と備上洛之
以頼ハ和平なく立城あり七月の間郡山南
より和りる西尾豊後守伊東筑後守と城外
なく完行べく信濃人抱置ても別条なし
とあり西人大抵くたりものすると遠そる如
中〜永引ものなり」○編年集成大日本史

廿五日

信軍勢自関東上洛 西尾伯○伯と記
石井大炊助安義對る条二条城則公御義昭
密使明る。幕府より義昭御二条殿を抵伺ふ
西使殿る西條
當時松永高秋ハ城を守る最要地なり
既ハ以ちら〜先人と欲〜思ふ石川宗慶
大徒是と復る度ハ公勝寺を捨て行社
神君敬西〜を立要地を抜らんと欲と
御感不斜〜てあれと許西ハ編年集成

廿六日

巳刻自伏見　将軍家渡御二条城御対面有
明後廿八日　南都へ御出馬あるへき旨仰出さる
駿府記○編年集成○坂日記

大野主馬治房か麾下乃軍士和州に侵して郡山を
放火す　又筒井主殿助正次　一曰定慶　郡山を守る大兵
の至るを見て不戦して逃て福住に到る　福住ハ主殿助正次か采邑
大坂の兵進て南江田にある松倉豊
後守重政か陣を襲て至る　郡山を距十余里　敵を放て則従て
軽く且使を以て駆て来て兵を発さしむ

敵営将監兵以奥田三郎右衛門忠次駈て其不虞を
敵我軍の集らんとを兵を引て去　松倉豊後奥田
追撃して不及　敵衆数人を擒にして返る　筒井
主殿ハ是を恥て遂に自殺す　武徳大成記○藩翰譜○武元通鑑○元寛日記○坂日記○武元祐道○編年集成○[illegible]日記
敵営には虎捷を発して河州[illegible]奈良玉造塁を
攻入　大和石を逆へ撃らんと欲して　[illegible]日記○[illegible]記
松浦因幡元正友ハ世に射術の達人且大勲
乃家なりし故　神君召て相府京都六百石
を賜ひ華士十人を附属せらる　編年集成

廿七日

捕賊徒〻興業 所年譜○創業紀考云補注中に焼人とする賊徒を捕と記○海内集成に義直公の記甲斐元三年
今丹後之国大江の賊を尺内に捕置成敗年人に成〻世内を遣すと記

早船荒雲与市郎源左衛門尉伊藤新兵
衛同〻出張こゝ為虎伝記

稲葉作渡与西成 矢命を受て濃尾伝尾乃
士と率て牧方を攻る 寛政伝記

大和の国原城乃魁八木野日向勝成と大和勢
と戦られ二陣八木主馬之助伊藤但
三陣八松平下総守忠明と矢沢但と 矢沢但の

先陣として河尾淡路良郎次郎左衛門尉長雲
丹後と手を合て我〻為に為虎を為
同尾文野新牧方より攻来村を進彼方
所々陣を設置て有り伊藤与右衛門尉長次郎
右利〻渡〻ならしむ 丹後古老之文野新
右衛門より洞ヶ峠を城〻同郡津国小進む
松平和泉守家来の但稲葉手長高木与右衛門
小孫乃兵庫元益伝記の小松左京親貞信清
知人荒尾与右衛門尉 伝記八為虎の孫
牧方を攻る国〻を京極兵庫助高知同丹後守

大和ハ筑田郡赤口村より流すくさら中川を経
山田十支とハ此下知ある條南京極おにより北
すると大坂すると是を整ハ天満元牧方より
是を搦ふべし当時伏見の加善松平安房守
信吉ハ板倉ふ振さ彼地とも富すくと代
として関東元一色茂谷と伏見くに兵糧也上
ら二條より於ハ京多上野介安房守力或ハ
是を伏くに或ハ京寺と是ハ伏見ふてハ酒井
雅楽頭忠世井大坂所司代を伏遣を 海の集成○剣業記考矣
神ハ八月廿日の野日の寺年多天満ら松平下総守を大和ハくと云ふ
記○考ふ日記○仮り記

月ごとの時のことども

為源左衛門尉ハ為御使赴伏見の清水ある清
延川の北橋作を改の縁○海の集成○仮り記
村瀬兵衛尉ハ為御使ハ京延ふ秋元
但馬守と云ふ別伏見くに作を 秀忠様
子清長成ハ清水を為元と清使ふ鎮ふ上ら如
秀忠様ハ稲葉正勝の内室人ハ御ある
相模守ハ京くに御延川源斗ふ上ら井侍
掃部頭ハ京堂和泉守遠江守京所ふ松平
下総守平源橋守ふ為仕ハ手端源兵衛尉ハ
京伏見ふ為仕ハ和泉守 家康様下

之任御旨に候間彼ゟ言上仕候て御詫言御渡
但馬守由返し遣候由也文　家康様御知恩院万
思召ゟ安藤對馬守二条ゟ来て今一往御拆解候へ
申とも御合点無之候て如此返答にも及候御返り候
相極之〇編年集成ニハ廿八条六月三日御進発御所更に御仕置せられ
遣はれのよし返事しけるか
られしと云ふ

大坂にてはもるものとて妻子何方にかくれ候よしと
いふとておもふ所にたゞ免こそんさいをもかへし候城中
より行義にあつかひ八は御赦免候へ由ゟこそて上
たゞ長の仰らしも志ゟいゝ由知もあるゝ八由本状

てんかそのうし

廿九日　家忠日記〇編年〇集成ニハ廿八日也

廿八日

浅野長晟与大坂兵戦于樫井而獲首十二級　御年譜
〇永井寿尋記〇八拾記ハ〇出生類異九々上記〇家世実紀并武補同上〇某々記追陪

家忠日記に云大坂乃云大野主馬并塙団右衛門
して御相城有る出勢大勢に而長晟蓋為塙
団右衛門尉東兵は自身してあたりし時物校に陣而
御紀〇集成ニハ
引文の若あ兵を勝と讃て闘て乙丸に至る
先陣備重右々上貴物とし三千人余於…記　浅野但馬守
長晟信達より出て三千有余陣と隔る

金町城番衆に成り、為加大学助長晨監物一人
金森に幸し、八町畷を経て櫻井の口より敵大
に進み来る、時長晨が云、上田主水助
一書陸と合せ敵と組み、長を討り上田勝より
病と称し亀田大隅と上田より次に陸と合
敵と撃つ多胡助右衛門尉と以陸服の敵数
十人と討る、安井彦四郎九郎府能義て軍
功と為す、浅野左馬佐は櫻井八木新右衛府
佐吉右馬尉と討長晨の従士を敵と退討と
数町首十二級を挙げ、長晨此首と持て

「○武徳編年集成」

〜先陣の小勢なれども、
命じて曰、市橋長門守は、同丹後守は石川
主殿頭、水野忠清は牧野駿河守にすりて大坂より
入る、又上杉弾正大弼は一西の信濃と
して大和口より起る、此軍数万
一番に水野日向守勝成丹羽勘解氏信丹後
守忠秀及大和宰相松平忠明侯は主正奥国二郡
蒲生忠知、神保長三郎氏成、本多因幡守忠政
孫次郎業山城守忠国、佐竹右京大夫秋田
右近衛少将忠直、小山長三郎主殿頭政長、村城

甲斐国志に云ふ二書に以て古文書に云ふ古政同中務
大輔大利同甲斐守政利同能登守昔信
織田信長公家及信勝の兵稲葉浜路等に紀通
一柳監物直盛古田左馬助左京亮光秀
織田民部少輔二書に松平右近将監及
英俗に云徳永左馬助品重遠藤但馬守利
遠山久兵衛友政小笠原信濃守一政
云一万五千石を賜ふ
村上周防守清に伯耆守宣勝と以郡属とす
騎云一万五千石村上源に謂曰く天正十年七月
廿八日帝師と義を武徳大成記
自大坂発御和事大坂信長人一万金銀引率
郡山に出て竜田清滝を迎て夜を別
中条清滝を尝塗炭の下、安堵と云ふ郡山地形簡単
主殿助紙坊我敬同文勢弱寸敗小同長
丁兵衛に云被来脇 西の海〇坂日記
和泉守八郎右衛門尉張し 掃部助八郎左衛門尉張
掃部遠江組左右左雲組神右衛門尉元如賀
筑前守人数指し 如張 坂日記〇安藤日記
上方表事〜勤者

二條勸書

同而左書

佐々成政書

泉州堺奉行衆

同而加書

松平陸奥守宗勝　酒井信濃守忠勝子長成松平信濃守

代松平陸奥守二条城

代ハ長成ハ二条城

ニ在城ハ

松平河内守定行

小笠原右近将監秀政　酒井信濃守忠勝

小笠原右近将監秀政ハ

一番ニ備前ニ

蒲生左兵衛大輔秀行

小出信濃守吉英

金森出羽守長可

小出　吉親

伊藤掃部助

同而加書

堺奉行左衛門尉

同而加書

此度関東ニ而信濃守ハ加藤左馬助ハ

堺奉行ニ而秋田城介

同ク奉行ニ

堺奉行ニ而左衛門尉

建部内匠頭長政

松平伊豆守信綱

同而加書

大和郡山ハ伊賀守ハ

紀州徳川頼宣

紀州徳川頼宣

紀州徳川頼宣

小笠原右近将監秀政

水野壱岐守忠善

水野壱岐守忠善

遠藤但馬守

城氏源城左衛門

同石山書

丹波亀山左書

相馬田中城左書

出羽手

牧方ゝ押

三宅越後守康信　舊名藤傳

仁賀保左衛門孝俊

本村越前守勝信

長谷川藤五郎

長谷川藤五郎宣勝

松平周防守康重　舊名藤傳

西尾長授守忠英

向井将監忠勝

小笠原民部少輔

松平和泉守乗春

毒木新平衛尉

平岩平左衛門親吉

稲葉佐渡守正成

遠山勘右衛門方宗

小堀勘右衛門

大谷一学

伊奈一学

内藤一学

朽木一学

[illegible]

大関治平次政増

内閣文庫

内閣文庫

吉田宗侍ヲ陸奥
福島雅楽頭資保
長谷部宰相雅保
伊達野入道資長
芦野右京亮資素
[illegible]
吉田宗出雲ヲ信濃

[illegible]ヲ御下知ヲ以テ河内国[illegible]新松原村ヲ[illegible]
[illegible]ヲ以テ[illegible]ヲ命セラル[illegible]松平[illegible]
八幡信濃乃小祿の士ヲ率ヒ同新牧方ヲ知ル
[illegible]集成

廿九日

幕下自伏見淀御所ニ参[illegible]三条御所ニ参[illegible]第三日　幕府[illegible]進
愛于京師ニ有ル　大御所伏見ヲ[illegible]御進発の
ヲ被仰ル[illegible]
小公大和ヲ去英使ヲ[illegible]小野ヲ[illegible]井ヲ
[illegible]和田演[illegible]和ヲ同伊勢ヲ[illegible]

出人数相我し勇勝利と云て野分波高し
御感也 元寛日記○武徳編年集成○海内集成

海内

浅野長晟献首級於彼方 即年譜○武徳大成記ともに記○
長記○元寛日記共ともに注と記○伊予記○創業記考異補○北井安

長晟り使を御前に召て長晟り
戦功を褒られ
賜る

於て長及一戦数多討捕し条々比類
法人公御感と思召られ也

四月晦

浅野但馬守
御感状を下使を以黄金拾枚と記○創業記考異補○右の元寛日記
元寛日記

海内集成に云浅野り根井内軍勝利の注進
として寺川左右衛門尉市左衛門
と御前に召て国と孝和し長晟感状を賜
老侯を云と是に也使よハ駿馬を与へらる
浅野但馬守長晟り家紀州和歌山乃城大野
治房の家人小村長左衛門一揆と企る由
家人小進捕若干変一揆悪退数しと又日向守

田辺藩ハ一揆起リ元也遊撃一隊の兵を溪
熱田ヘ遣電して尾州勢ハ進行ニ云長藏ハ
急坂紀州国ニ仕垂ル仕而及向大坂生捕ル
小村吉左衛門ハ板倉伊賀守ニ可委任ニ云々元寛り記○
於信達大阪伊賀殿先小村吉左衛門大坂ニ二十余人
生捕ト紀和ハ行方ハ○海ノ集藏ハ長藏ノ家人紀州ニ殺ル
為ニ家長吉左衛門ト捕ハ云ル

紀州

東海道ハ上杉宗勝ト二條乃御藩ハ京都ト
守護ニ為ニ上ル京都ハ長藏ハ
小陣ヲ張ル黄鶴信

六月

六月朔日

大徳院殿根井ノ家ヲ賜ハ長藏ハ
浅野長晟ハ賜ル

七度於ル長ハ浅野侯ハ頭数多ク新来
神妙ニ思ヒ下ル励軍ハ肝要也
六月朔日

浅野但馬守ハ
紀州ニ在ル
於大坂ハ長藏ハ
作ル政ル條○海ノ集藏ノ新来
古田織部正ハ大坂乃城中ニ通ル約ス

定先鋒中を焼んと謀るに板倉伊賀守勝重
小勝〻を為るものあり勝重来て大神君に
其事を告て板〻彼虜を手探り先鋒を
罪をらう大坂の城塀の板を取て古田と教る
（右伝云の如く人を遣すと雖ども板倉勝重を為るなり集成）
（若村氏在田）密に大坂より来り板倉勝重に逢られ
（右伝云大和城の如く為るなり）
（おのし定られし日を以て二日のうち城に入る元和記）
（○切り記○茂編語○村秋記）

板倉伊賀守勝重を以て小悪動を防ぎ家康
最初大坂の城糧糧を運ぶ所以を
寄訊るに有り金厚の内渡と云る為敵

小倉〻に米穀乃至量り是を以て従軍に積り
考るに僅に二ヶ月の糧糧〻を命かるなり
演説に曰く北条氏政の先年御家と為し
藤長日向守を信政成田信長を遣し時り
後〻軍に列せ為
尾張名古屋中納言義直卿
右馬頭頼宣卿
（右伝云文政年間に成田氏の家に伝ハ）
を考ふるに
大坂より都に帰
（集成）

二日

神君恩許を蒙り

二日 織田信雄伊賀を侵し攻め来る 廿九日合戦 信長記 [illegible]

[illegible] 大野城を攻め [illegible] 政秀 [illegible] 信長記

三日

今日御出馬の儀 [illegible] 日と御延引 [illegible] 信長記

大和路乃勢大物城攻かゝる 定光記

路次々々陣々々を [illegible] 南都乃

警固を居らる 信雄の軍

列々に丹大物城を取巻 [illegible] 信長記

四日

信雄院殿 [illegible] 水野日向守勝成

小鳴る 水野日向守 信長記 [illegible]

[illegible] 信長記 [illegible]

五日

大樹義昭公伏見陣 于洞示 御年譜 [illegible] 信長記 [illegible]

村の衆 [illegible] 信長記 [illegible] 村御文 [illegible] 永井文書 [illegible] 坂日記

同日 五公二條城而武器回 河州 御年譜 [illegible] 信長記 [illegible] 村御文

[illegible] 坂日記

[illegible] 二日 [illegible]

小姓 [illegible] 公 [illegible] 家康様

[illegible] 永井味噌二升 [illegible] 二升 [illegible]

一枚数百十成紙数度に人々及合戦に
勝負に成負に三日目に八幡原こうに遊こうる
に御おいの事　材料に一挙に勝利に成り
[illegible]
と裏て酒多く小荷駄に成
上○剣書記考夫補○八幡作多

政事録に云已刻　大御所二條御動座
奉しに成不勝計申別波御屋田羽柴越
中守屋田御所有に来平重来向補に
御行られ中刻
御對面御陣に次第諸侯公家伝奏
[illegible]

和泉守に云井大炊頭安藤対馬守御使に
○故りに○海に集成に真信に計に云に
の者に人全部計僅廿一枚に云
[illegible]
海に集成に云屋田乃長平井二郎右衛宅に
云御　右伝に波御　御對面時に河内口の
芝浦友貞和泉に云安部の陣所より
来り　西に御軍使に席に臨に
義直に来宣に同名陣御後に被押　剣業記
考夫補
相軍衆御行列一番惣目に御旗七本来り被
云伝に御同法に二行に列に出旗相七人
一枚の出立行に成に者也以上十四人

扨也二書金の七本骨乃廟ゟ小日の丸乃絵かゝる
御馬印銀の縁ゟ月乃ゟ金の切ゟ紙付きる
小馬印銀二ツ瓢箪のゟ銀乃のふきん付
御弓印紙日ゟかゝや紙ゟさゝゝ猩々
武田勢百騎くらはもちゝ西きて先駆ゟ
三番ゟ　大将軍八重示乃御猩々ゟ熊の毛ゟ
以織付ける御陣ゟ唐人笠ゟ被付
白芦毛乃ゟ金具の鞍ゟ紫のあつ敷さ
虎の皮の陣屋象眼乃鐙白鹿の磨革皮乃
尻鞘ゟ付る御太刀ゟ佩ゟ白の御長柄

右ゟ唐ゟ西形乃御先ゟ成ゟ出流
阿部ゟ右ゟ本ゟ右ゟ肉ゟ皮ゟ紙ゟ
四番ゟ武田の大将ゟ皮ゟ和ゟ赤ゟ
名代ゟて上ゟ如の軍勢ゟ二万人思ひゟの
裂ゟ旗ゟ沢ゟの旗ゟ供ゟ成ゟ
出陣ゟて武田井林示ゟ去年ゟ病ける
依ゟ今年後陣ゟ成ゟ
大御面様出行列ゟ書無白の御旗
将軍家ゟ初ゟ七流御旗ゟ武田ゟ
行今ゟ廟ゟ御ける銀乃

胡宮ゟ平御ゟ
ゟ移ゟ

鎧兜二ハ切ノ如ク仕付ケタル小ヲ下ノ図ノ通リ
厩離穢ヲ以テ求浮ヲ上ト書ケル所ノ旗
御馬ノ脇ノ前掛ニ但馬守殿御紋付ノ幕入ル
三ツ御使者元宗ヲ合ヲ以テ丸ノ文字書ケル
指物ナリ但書ハ小姓元自ト紫トノ縄ヲ
半月ノ前ニ置ク小袖乃切ヲ付ル思ハ〳〵ノ
模様ナリ太鼓ハ黒地ニ赤ク黒星歩
行ニ立ノ元也二十人ノ人数ヲ以下ル
四ツ〻ノ中人也 元宗ノ家来

武徳大成記云

古徳院殿伏見城ヲ発シ給

ヒ井大炊助利勝ハ軍乃部ハ立リ徒人乃後ヲ
為改同大膳亮勝ヲ始ヲ飛ヲ祝良ニ乗ル為ト
西房清ハ浮ヲ長勝由良信濃ヲ左衛門
浜路ヲ東ニ小笠原右近ハ一万酒井雅楽頭ハ
右軍ノ部ハ立リ細川三斎ハ元忠備ヲ
氏ヲ右ニ右ヲ信ヲ成次松平伯耆ヲ長房新左
衛門ヲ東ニ右方ハ部ハ形原主水正ハ
地ニ一万ノ中ニ徒人信及松平伊与ヲ
立ル右ハ指宗義同主殿正東次右ヲ
右純義同大和ヲ利孝ハ相馬野織部正ハ秋元

越中ノ国住人長谷左馬ノ允範安、那波ノ三郎利ノ三郎
蓋田ノ三郎等ハ武川ノ三郎ノ一万騎余騎
次ニ上野ノ国ノ住人新田ノ四郎義重、大和ノ
松平越中ノ守義孝ノ軍ヲ
ヲ山伯耆ノ守ノ後ノ水野集人ノ左衛門ノ尉ノ軍ヲ
軍士ノ三万余騎ノ左衛門ノ尉ノ
親ノ三万余騎ノ左衛門ノ尉ノ院ノ御所ノ
河内ノ角内ノ左ノ尉ノ
同ノ書ノ云 神君ノ
二条城ノ
寧和ノ義宗ノ城ノ集人ノ竹越ノ山城ノ守ノ
勢ノ騎一万ノ遠江ノ寧和ノ教宣ノ義ノ水野
対ノ守ノ
警衛ノ
先ノ
ノ虎二番ノ井伊ノ
廉勝ノ小笠原ノ云
同ノ大学助ノ
ノ民部ノ
成田ノ

康定水谷伊勢守勝隆相模守大膳亮義胤六郷
左京亮政宗稲垣平右衛門重種右京亮政直
酒井左衛門尉忠次松平甲斐守忠長松平安房
守信吉牧野駿河守忠成松平右衛門尉康重
本多出雲守忠政三田保正次秋田城介
実季佐竹左近衛少将義宣長谷川藤五郎秀
直脇坂淡路守安治六郷
七郎兵衛松平伯耆守忠政二万余騎
酒井雅楽頭忠世金森法印可重
武徳大成記
神君命ありて日刻大坂の軍士を集ること十四日
目小及りしと我軍四面に圍設ハ敵出死戦して
彼我多亡たん事必しるべし如天満口乃圍
と欲く生路を深く脱出ること如とくんハ
由是三面に云とあり
武徳大成記
神君生とゆの微言也
大和路乃諸軍松平上総介忠輝松平陸奥守
正宗是を源ふ武家伝記
ゆり一柳豊後守直盛田大膳亮分部左京亮義政
織部正織田民部大輔長益小人左衛尉忠政
脇坂松平下総守忠二浅の藤七郎稲葉

浅野弾正忠氏長、丹後国遠藤但馬守盛数、
水野日向守勝成と孫長として、松倉豊後守
重政、丹波国三右衛門尉、母或説ハ備前侍従三男
山城国宇治郡内、藤堂仁右衛門尉高虎、伊賀
国名張郡、筒井伊賀守定次、大和国郡山城主
甲斐宗運、武蔵国忍城主、成田下野守氏長、
武蔵国大成城主、木村長門守重成、
軍を南部に駆、南部ハ去
郡山ハ北
南部西 前軍三部水野日向守勝成丹波守
忠寄、丹後国中川内膳正氏伝及大和国二部筒井
定次、伊賀国二部、藤堂仁右衛門尉高虎、
近江国二部、京極宰相高次、
摂津国一部、木村長門守重成、
合十万石余也、同
進、河内国、国府城、駒谷に陣、
申刻、水野勝成、松倉重政、
軍勢を駆、村越茂助直吉、
形勢を検視して、
及て、
諸手、
義に備て、

兵濃守忠政、美作国一部、伊勢国一部、及伊賀国一部、
松平下総守忠明、西尾隼人正光重、及更屋弥一郎、
諸手、
進、河内国、国府城、駒谷に陣、
申刻、水野勝成、松倉重政、
軍勢を駆、村越茂助直吉、
形勢を検視して、
及て、
諸手、
義に備て、

茂雲寺虎之丞と云ふ者ハ南右り紀の
大和ハより河内へ出る間道にて乱妨を
河内方利徳と命をとり取ル 海道集成

六日

吾妻城ハ相戦ハ于矢尾若江小廣城ハ敗
矢 伊達政野ハ及伊勢大和ハ共ハ矢尾井伊殿の茂雲寺虎
丞長曾我部ハ戦于矢尾井伊殿ハ木村長門ハ戦于
若江郡ハ遠江方康勝 御年譜○剣書紀考異補○元亀日記○八幡宮
丞勝ハ戦于同所 ○考古日記○信方記○海道集成

南方日記ハ云 早旦茂雲寺虎長曾我部ハ
と矢尾小戦ふ寺虎方ハ墨部と西郡ハ今
て首級をとる 而伊達ハ敗走と聞く 世首と

石覽ふ寺虎方ハ隊長茂雲寺七郎良勝同
云茂雲寺同仁右衛門ハ刑同敗毎田氏
勝家名浅次郎 村瀬氏 山岸氏 云敗 成吉
七十余人 戦死 長曾我部ハ利と矣く
大小敗走 之伊方ハ平野方ハ
当ふ 寺虎方ハ云矣首級と 井伊
抑敗 北条方ハ若江ハ 木村長門と
奮戦 大小勝 木村方首と 虫喜
士卒 木村方首と 虫喜
久世二四郎敗 二十騎 本多二郎 伊使 ハて

筑紫に高虎并伊東祐兵の陣を起し先八代
八尾城に向て張すの由宜くと機を察して
先と戦を企ると命をうる御使来て之命を
告るに前に軍已に早る本村長門守命を
弱を以て強を伐ことを謀の軍士小若江を敗て去る
林原遠江守康勝岩田主殿本村主計
長門守等戦ひ大勝す貴七十余級を得
主計敗亡を康勝高橋信濃野長瀬
大隅守等八代に流る後藤又兵衛府井に
誉田乃丞を従て大和路を拒て引退く

誉田大炮を発て松倉内奥田勘兵衛
奥田左馬助等奮戦て死す松平下総守大敗
を討て走りたり
武徳大成記に云後藤又兵衛誉田庄人正
大和口に向井上総介監軍を奉て
小倉作右衛門大野主馬貴治房田原内匠後軍
を引後藤徳川家康に敗て
襲らんとす所の小去
よ知る古市八丁目の南一里
て市に河あり後藤誉田八幡に
誉て大炮を発て松倉内奥田勘兵衛
奥田左馬助等奮戦て死す松平下総守大敗
を討て走りたり
武徳大成記に云後藤又兵衛誉田庄人正
大和口に向井上総介監軍を奉て
小倉作右衛門大野主馬貴治房田原内匠後軍
を引後藤徳川家康に敗て
襲らんとす所の小去
迷て道を失て古市
軍士等僧侶後藤元を以て先
誉田八幡に祭り
邦俗八幡を
軍神とす

此不防戦に候あり馬に乗り海を越し上方
へ候様に報を聞て本軍寡少なりと坂崎勇
猛の己れ功を専らんと云て進て片山の松林
小丘に遮明小流を渡て松倉豊後守勝重
田間を渡り己れ傍に先登して奥田二郎左衛門
直に片山に登り戦ふ浪人吳木加内先登
の流れの中に死す奥田書源左加内と討死
行て生るとも死んと云て先駆して演説と登り
進む豊後守云合を撃て賊に奥田治左と
血戦して死す治人下野左仁神子田四郎兵衛
井上四郎兵衛同戦死して松倉

進戦ふ先手の者共先登して陣を合せて雙
眼小傷に成て松倉健闘して功あり坂崎
毛利勢に進て力戦す坂崎の云山上より撃り
来て敵の撃を我軍支へすして逃て大野
寺の助人衆に陣を合せて敵田松倉の云
此に横と切て反撃て貴と斬ふ二十余級
豊後守深く敵中に入て健闘して止に戦
危く東士本多忠朝を救ふ忠朝傷を所
自陣に揮て奮戦て敵を挫く松平下総守
右の隊八片山の東に陣を曙なんとして

云と云ひ進て形勢を敵に示す敵云ふ流義を
右翼の義士山田十郎左衛門ら諸士と共に
黄沢七郎右衛門ら演進て相共に戦死を要す
金子川山橋を信進戦ふ貫級を得たり云云
力戦して敵を斬ること数千級敵大関懐ち
林保長三郎等と進戦ふ斬獲あり水野勝成
子勝重監軍中山村頼と備を為して奮
撃て山上乃敵と進下して接戦す
と要三田お毛利文大野ら云二万の
と交戦す敵の数多一斗ふ流義の数多一斗ふ
敵云云以今大野修理亮波多野秀政
左衛門佐云三万と率て敵軍復振ふ既
ふ三田云山後推して云と敵を退
と以敵の先鋒斥候小十郎云と
挑戦ふ三田云云と云と云て橋戦を進退
敵田要軍乃死者百人波多野秀政三田
上代て奮戦を就敵二騎を斬て身を
被りて退を三田又波多野代戦三田
従士死者二十余人三田云傷て遂に
殊死して戦ふ小金代部

動騎六百ハ之ヲ渇シテ決戦セ所令セ亦戦ハラ
ヌ軍交〻相距ル七八町ヲ〻陣セ午時〻
ニ右翼大ニ之ヲ引キ敵ヲ則政宗ヲ促シテ
ニ之ヲ進テ敵ヲ撃ント云政宗ノ曰ク外ヨリ手ヲ
ニ〻力戦数回我ニ当ル者疲キ且地勢狭ク
近〻日ヲ暁ニ向フ橋戦ヲ及ヒ我必敗ヲ
取ン浪ヲ云ヲ動セシメ一柳監物ヲ
密ニ右翼ノ部隊ニ指ハレ之ヲ憤激
〻テ目前ヲ敵アリ必戦テ止ハ行計ノ如シ
けるやト云ヒ一柳ノ言ヲ用ヒ去ナ

水野勝成ヲ政宗ヲ勧ク相共ニ之ヲ進ム
敵ヲ撃ント云政宗ヲ疑ヒ軍戦ヲ欲セサル者多
故ニ右軍ニ之ヲ按〻テ前進敵ニ大軍ノ集ヲ
相伺〻テ日既ニ夕陽ニ及ヒ之ヲ収テ還ラントス
如〻ト於ニ士卒ヲ〻テ村ノ民屋ヲ
焼〻ヲ煙ヲ〻テ引退ク 木村長門守成
国ニ升ル山ニ上ル而一百余騎ヲ率テ若江ニ
ヨリ長男我ニ於ニ国ニ補盛親ヲ余騎ヲ尾ニ
小出東軍一番黄昏和ヲ戦ヒ虎二番井伊
掃部頭直孝三番榊原遠江守康勝ヲ

遥明より飯盛と称して大坂より起て薩摩堂仁右衛門同勘兵衛田辺茂左衛門同
云故為一部渡多勢を指次て薩摩新七同喜兵
田中四郎兵衛左田右衛門一部を以て薩摩より千
候馳田辺に曰城去二百計矢尾久宮るよ者して
時に言虎之助陣を千助は矢尾と去て半
南に行り世号に大和川二條あり相去て二十余町
を一條は矢尾と久宮るとの号あり偖去
矢尾より循て相連て二十余町渡辺勘兵衛
言虎に若て曰世而水田に入りて馳控自由

なる水田の外を廻て我に可なるん
言虎然て飯盛の南方を南行を既して
渡辺小雑に云て敬を表て馳て言虎に若曰
南りの敬怨恨して東に向て一面に進む
を我軍と横て衛んとを言虎世而我に
敬て然も世而水田に浮を恐て地
前に横況あり言虎軍を退て敬を飯と立
敬を待て我んと言虎に行を許て渡辺馳
左敬の勇士に若るに言虎に言を以前の況
小勢に止て冊んを薩摩堂茶茶に

くて進て河堤を過ぐるに石止薙蔵の郎士波辺と雲と
言を用ひ田百助と共に並び馳るとなり次に二騎三
騎の敵ありて進み行列なす三虎の
右旗薙蔵新七同云薙田中友田を列として
率進む西郡萱振村より出る本村の先隊進む
若しくは中軍の動云若しくは西郡の百姓
新七云薙蔵進て接戦す本村山口年礼表
三郎内薙新千郎佐久百姓人波多野云庄右表
市云佐長谷川古田仙田及長百我部の云
競進む金を撃つ薙蔵の云奮激して死を決し

て健闘す新七云薙田中友田壮士数千人一時に
戦死す右旗の云薙蔵仁右衛門同動兵田素右
沖沢云来山岩云旗小進て矢尾悦に立長男我旗
敵を殪中に引着く流矢飛く殪て短云
色に接す薙蔵素右貞綱を挽て奮戦して
彼を相殺す次敵の為に殺さる若三
十余人薙蔵動兵田大小呼り勇を奮い血
戦して死す于時薙蔵の左右旗の不獲の首級二百余りあり波辺動兵
云と接し鬱を伺て時に軽云と出て挑戦して
首級を獲る波辺云虎小若く曰砂に示

屋さ乃槍あり主を庇と進先られ主を
討く破るべ〜こ乃虎乃助先隊の勇士数死を海辺を
ぎ〜ス 井伊直孝の先隊河〜を氷室原乃助右衛門
小進て若江より和〜木村の軍と交戦て木村
長門守山口左馬助内藤半礼佐久乃波多野小
及去年大坂より被ふて戦功あり〜勇士共氣を励
て力戦て山口伊豆守を伝え登〜て後士若干
と奮戦〜て死を〜山口勢と神原〜〜〜〜〜
河野橋右衛門通定健闘〜〜貢級と獲く麾下
より敵を 一書首と称を河野を元宿〜〜
健と号る由也勢と宿を〜〜 笠川志摩乃遊庸

力戦〜て斬獲乃功あり河〜を氷室原乃助右衛門
勇と敵〜進戦ふ河〜を除と合て貢級と獲〜
俄乃〜〜敵乃大騎合を撃〜〜殺されそう乃右
衛右衛門廣瀬左馬助乃戦死を木村山口勢
乃〜〜進撃を直孝なぎいと執〜大よ〜〜左と
励を全軍競進〜〜奮撃て木村乃兵を
手〜〜〜〜〜〜戦死〜〜〜〜〜〜〜
〜〜直孝乃生を〜〜駆を〜〜て縦横乃級
走る山口左馬助頭止〜〜血戦〜て八田金十郎
乃為〜殺さる木村長門守自殺人を斬て

勇と奮て死戰して安藤長三郎撃て首級とはせり
本村小兵衛氣焰のごとくなり猶必死と
期して奮戰して死し世に称列と称せり 佐竹人百騎人馬木
人斬て関藤新十郎八日小波瀬右衛門撃て手柄
長三郎八日下三郎右衛門大多喜長八郎合て撃て
獲て手柄周悦あり二子を死たり大坂驍士戰
殁せり甚多し 亜者ハ云追撃て首を取ること
二百余級本村主水佐竹家臣田村と小栗家遠山
康勝小笠原氏家臣浦秀政水と隔て陣を秀政
進み出て敵と撃んとす監軍藤田能登守
是を止むれ派也隔る所ハ云小栗ハ云

進て撃て水流て泥なし小栗ハ佐竹と
浦右衛門藤田稜右衛門実て敵軍に入敵も亦銃
を取て動戰を伺ふ三浦安房守忠政亦戰死
角し是丹羽長谷川ハ力戰して首級を挙
中根長右衛門戰功の最高り康勝大多喜を
厲て敵に討て敵遂て敗奔る長谷戰場
先陣を挫て勇氣頗る張る為堂ハ一軍反波辺
ハ云敵に進て揚戰を長谷戰を長谷を厲して
右往左往時を移て既に佐竹本村ハ軍敗走
敵軍陣動て為堂ハ云機を乗て敵討長谷

我敵退てゝ久寶寺かいくんと云荒尝寺云云
暗くゝ[illegible]れと撃て入とゝ[illegible]とふ法去て平野より新
荒尝寺云又追撃くゝ首を斬るゝ二百余彼勢
長尾我敵の師を[illegible]と死騎士あり[illegible]敵て論
若僅くゝ三百とゝ云
政事録云　大師[illegible]畠山師返[illegible]彼[illegible]如
自　幕下安芸守[illegible]大坂表人
数[illegible]師使[illegible]中[illegible]
言上[illegible]幸[illegible]人数[illegible]
設[illegible]時分追討可仕[illegible]元藤尝

和泉守丹伊掃部頭伊を[illegible]れ　幕下師人数
平[illegible]迎[illegible]被押[illegible]　大師[illegible]師[illegible]
次[illegible]平打[illegible]大坂表人数[illegible]
故暫拒師興師返[illegible]甲[illegible]河野[illegible]
[illegible]日[illegible]師敵紙[illegible]
[illegible]丹伊掃部[illegible]一[illegible]討捕[illegible]
掃[illegible]大坂表丹伊掃部[illegible]迎[illegible]
迎討仕[illegible]数[illegible]
被敵師敵[illegible]師感[illegible]
[illegible]云長尾我敵[illegible]尝和[illegible]使[illegible]
[illegible]捕[illegible]使人数二百

騎余を合戦意くに為を手捕大坂を急
久保を村出迎付首を貢数百
騎余捕来又井伊掃部頭に侵を来十
今般已刻信濃国迎本村長つを同長主計
山口左兵衛尉一万余騎打出
井伊掃部頭人合戦し如本村主計頭迎
を長つを左兵衛尉を突竟し打云三百
十余騎掃部頭手を討捕残騎を遠に近に退く
又掃部頭信濃又を始南来二人長つを者一人
生捕後陣大勝掃部頭遠に手貢数百三十余

討取。（信濃国服部郡）神保長三郎手を合捕首後又を始於戸明る
迎改宗手を討取。（河海を長成口伝記。坂口記。村御堂記。九条家四代記。北条記。）
井伊直孝合戦記録兵首を数千
家康公被留手興を為を来村を首
高麗を集被感討死を志于時を
信濃を本村討死兵を数人別段
家康公聞を討死を志可依月額取
被曽思法下を被仰則を曽信濃切端を再
不可思人を影を集り討死人兵を思儀を

彼御先人を感　元寛記

越前かわたり出羽守殿へ出ん之乃又家康おそれ留ル

と〻〻慶下之新〻命を蒙〻し　神君乃

曰今日信長我と同心ス大事行ス池ざくんなる

時るの先陣家老を命ぜられと尾州と宮ふ和多大

ぜられて還て大事と若〻大事と切畜生と

時ら家必滅〻死人と云右田御殿大事

告〻曰我密秀長ハ仕〻大坂ゑ往年て

世世乃業用と知時るの先陣我領八郷年之

大事許〻右田夜云と引〻業慶〻之

武徳記○海子集成○元寛記

時ら〻合戦〻旗下及至浮ハ〻信勝力なるとき

乃〻出思ふて同日捷　家康云　秀吉云

と為石ん為出陣今日八日と注〻出押の

〻〻る信長〻信〻抜〻外出者ハ〻る　村戦記云

家康橋本長浦井伊掃部頭方の首級共

生捕ハ〻〻〻　五三生捕〻内勝田八郎右衛門

系図云〻〻〻右田家出新ハ

村御記云○海子集成○元寛記

出後押　内府稲田右衛門松平肥前守

押渡候通ならんと云ふ事歟也則肥前
国押前之海渡之ゟ出ある六十騎ハ
村橋之ゟ

秀吉様御陣所
家康様満押之ゟ出ル
成瀬豊後守ゟ出候ハ成瀬逆惑ゟ出
中しゟ
家康様ゟ出候ハ稲葉丹後守
上野介墓ゟ出ル府様ゟ出押之及逆海成
逆思ゟ出御供之ゟ御供出押
秀吉様ゟ出御
出行ゟ御ゟ出ならんや平井ゟ出通
ゟ出ゟ下ゟ加制候即引通ゟ出押通

ゟ出ゟ　村橋之ゟ○佐士軍後ゟ
ゟ出ゟ横田甚右衛門尉ハ松と以茂宮井伊今日の
軍ゟ後ゟ敵ゟ敵と為ゟ出ゟ御ゟの先陣と
加賀越ゟ定先ゟ出ゟ虎ハ
物軍ゟ御旗ゟ乃義後ゟ出ゟ命ゟ
中ゟ村長ゟ対捕ゟ
長三郎ゟ長二郎ゟ
ゟ出ゟ長二郎ゟ二領ゟ賜ふ八田
金十郎ゟ八山口ゟ
ゟ対捕ゟ金二枚良ゟ足ゟ
ゟ出ゟ部ゟ
玉平郎　河尻

剣業記考文補云　公星田と御立御具足とあり
星田は八里ヶ丘の御陣也　世界星田より出羽国の
[illegible]　今日平岩より[illegible]
○村[illegible]七ツのうち
○元亀元年
編年集成書に別也　南大和平岩の御陣
とあり　神君は平岩の左右より宅を法花宮
とをうらる　法華寺　野陣と設くべきて
加賀かの利常より内の先陣を命をうる

七日

於安部野大戦大坂軍敗北焼屠城　御年譜○序ノ見義
剣業記考文補云　公平岩と御出陣と

御陣を被進　御先より敵おかるる時進あり
法華寺　天王寺　向路途中にて
為軍家御対面　為軍家天王寺表と御陣
とも　公通下被向　公より義重を
頼宣を　今日御合戦に相定る時御使あり　南
出先に合戦と張出　為軍家
御陣所と被付　被付軍各城中に入
南方日記云　御陣立方　法花安部野に
大ッ戦　松平元九郎　一廿六　先陣に奮戦
死　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

小笠原云秋大捕秀政 六歳 嫡子信濃守信濃
天王寺表小我〻命を預て二男大学助大政
信〻方と支と称也 若我〻て七ヶ所乃城と被成
政平藤云富別 将軍家大坂表御進発
大御所御別御動座平野天神表茶臼山迄
已別合戦始る大坂勢敗北之雖依而
抑秋分長曽我部元親高知城を大野主馬
同乃天王寺表云黄昏又七組〻敗野村伊与守
城田長左衛門野瀬人伊黄丹後守中島式部少
吉木民部少輔少輔六郎甲斐守数百人敗入死敵
意〻敗北 幕下御陣先〻手負者多分小
笠原云秋大捕同信濃守安藤対馬守松平肥前守
古田左兵衛佐頼母神保長三郎真田三郎
等討死未別と桃我如関東勢大敗北〻
幕府自今執麾令進行御国人取為〻雖然
掛右右国行国〻法軍事進又城内勢
自分大野治長宅放火秘史大移二九本丸
不残焼亡於今敵二百二十六百九十二討捕
武徳大成記云御系明 南大君信濃守

命として云々大坂に進発しむ越前少将忠直
二万余騎西国より茶臼山に向ふ本多忠政
松平下総守忠明又二千西より続く松平武蔵守利隆二万
余騎東国より茶臼山口に向ふ本多康紀同
康俊遠藤常利等同東国より陣して本多出雲守忠朝
小笠原秀政浅野長重秋田実季真田信吉
等天王寺に向ふ次に酒井家次榊原康勝松平
康長稲垣重綱等相従ふ永井右近直勝安藤
帯刀直次命を奉りて諸軍に令を伝ふ
神君は麾下板倉内膳正重昌植村新六郎家政

内藤掃部頭政長左右に侍衛して本多佐渡守正信七十余
騎にて侍る　時に　神君白袷衣を服し玉へり甲冑を帯しおはしまさず後正信にも
本多上野介正純信勝等手一隊百人を率て護衛となる
尾張宰相中納言義直騎士一万余を遠江宰相
頼宣一万五千を率て搦手に備ふ　会津侍従蒲生忠郷
にて陣し玉ふ丹羽長重保科正光成田仙石
等　幕府の左右に侍ふ井伊直孝藤堂高虎
右翼にして先にて六隊の長たるを率て麾下の
前軍たり酒井忠世土井利勝本多正信の二部
乃ちこれを本陣に陣して安藤重信一部後軍と

海ふ国長政加藤主計頭と共に大坂
乃至十百余人を率ひ西国筋に
より出る敵軍を防ぐ浅野弾正少
弼と毛利右馬頭秀元と
山乃南より海を渡り東八幡宮に陣取
三国条右馬頭義弘又右馬頭石川肥後守
清田右京亮佐藤内膳正井関右馬頭竹田宗鷹
右兵衛尉等陣を張豊臣方の諸武将
勢多山に木戸を設け
治長天王寺乃東に陣を張り七隊の長列と成へ

なし其村を外に湯浅右衛門と長谷部中務大輔
他に高野三野豊後守其外諸国の
清田平三郎内藤宗内二浦義保内藤木工右馬頭
等東に陣を大野治房内藤宮内少輔
越前守長山に陣を二条左兵衛督長田左衛門
蜂須賀阿波守蒲生飛騨守
新宮左兵衛尉等西に陣を
○海内集成ノ文
又伝
已列
なり
なり毛利右馬頭秀元
なり毛利右馬頭秀元
なり毛利右馬頭秀元

二百余人進て後撃り三田白石黒田〳〵を麾き
揮い元を廻して慶我別と称す大谷大学助
波辺内記神保氏七郎右衛門江原多田右衛門
福富平八郎等も亦能隊我先神谷乃大谷大学助
も競かりて奮撃つ城を攻て敗走る
三田数止り奮戦て死く西尾仁左衛門を貫
ぬきて野尻左近を御宿城主を撃く之を貫
獲す（御宿の号山口乃新右衛門あり）
退撃く船橋より攻く城門に入く旗を立ツ
多野勝成丹羽氏信及大和乃国茶磨山く

向く七ツ石坂松平右近政宗乃国和泉て陣を
越元の戦を挑むと雖も勝成之を進撃ぬ石井新助
仙波より右く道を邀りて厳く乃院を殺す軍
利を失く即走る勝成乃南土居田尾関を進
撃て破く勝成神谷乃国と同城門に攻入て旗
を獲つ入て乃神保長三郎右衛門戦て
討死若干中村く戦死て」
又云曰山口乃左衛松平義乃る利光軍令を
ちて時を待（此日の軍人令午時を以て我もく）已別西急磨起る
利光乃左軍を進て安房横山・薄山時

采邑五千騎士三百山乃如く壓雲の如く撃
大野乃云ふ支根根くして東に拔き薙く加賀
乃云雲く進て城に起く大坂乃後軍大云と
雲く後より敗走を我云搦く云く追撃進て
城門に迫る城云死を決して防戦を時く院に
来て和多康紀り貢献小中りて幾尾く安茂
次右衛門西次敬二人と戦ふ一人を斬て引也
ふ剣を奪る（弟右衛門次を伴て敗走して剣を奪ひ逃れ去る）大小八保
内紀成光も亦戦死を加賀乃騎士死をうち
殆ど人（利光自大云と）殆くして奮撃追撃

て城柵を破り首級数千を得たり
又云ふ小笠原乃云原をうち和多茂乃
右敬乃西和小西豊ふ乃云原をうち和多茂
浅井周防乃竹田兼義を逐ひ海に大敗僅に
都土若干を率ひて駆軍に入る表乃
左路西後に退く追撃大敗の後軍及
屬云三河国乃信右松平石見乃を淀野
来地長宗馳く接戦し表或敗走
働くを西乃を蹴つ加賀乃兵畫ひ撃て自
七八騎を斬て死戦を豊乃を云ふ

曰此物なり脱角し伏兵の云百余人共に起て
合撃す右の者の家士小野勘兵衛由右衛を撃て
進し兵の云論と撃て空中に刺挙て大
作者つと同死す右の者血戰して止ん遂て
殺されり同行加藤中根山内等十数人
相続て戰死す大人系図者の窪田伝平高柳田
平兵衛小庵主の御手十余人
力戰して剣を被る所獲首級七十有余伝科
甚四郎正矢右の者と相戰て若戰して剣を
被る」○海道長氏大系日○若干ハ

又云
小笠原云永右備前秀政と伝法寺右備二男大学
右政騎兵二千一撃て竹田某意と撃破て進
て大野治胤の軍に入り戰長吉に動
云と提て横手に回よ者れを働く秀政陣を
よて輝て馳突奮撃て敵を生れ為て殺す
秀政主剣を被て倒れ家士全て其主を
扶て管に海て死す右備もて陣を
捨て馳入て速闘て所向辟易す敵復合撃の
右備奮戰して遂て敗乃為て殺す家士
小笠原主水正矢半以右垂て死す二人動

右衛門尉岩波等二十余人前後ニ戦死
せり大学殿父兄乃死傷をも不知ニ馳て
敵の後ニ出従士渋谷経厳浅香角兵衛ら曰
戦ハ後ニあり騎を返して引取て撃ん大殿か
曰今何そ後ニ随ふ人やあらん進て城ニ入
んと云馳出城兵数十人と相遇ふ大殿まさり
下り組兵を執て力戦す敵槍を以て刺ん殿
堤中ニ墜敵又来て進て刺ん殿刀を以是を
擲く敵以為せ部将なりと競て堤中ニ入
て撃し大殿苦戦して創を蒙り戦と死せんとス

従士亦堤中ニ入て救戦ふ適我大軍至て敵去
乃去因是秀殿か備戦殺して大殿死をまぬかる
ことを得たり　大殿初大学助と云〇本書日記〇坂日記 後右とも又ハ記
又云　右衛門佐殿麾下乃士卒六隊乃士及
酒井右世右井利勝酒井右衛門尉家次松平丹波守
康長本多縫殿助康俊同伊勢守康利同若狭守力
右真田所向攻撃大野治長豊臣若干七
隊ニ長及諸部分東西数万騎相共ニ接戦ス
松平丹波守内藤若狭守力戦して奮戦す丹波守
敵乃為ニ傷られて敗走す東士千余人来救

福徳寺殿主税之助と撃殺る所に佐久間成次
安藤帯刀左衛門次牧野内匠助信成永井信濃守
右後井上主計頭忠政遠藤但馬守常利前田
能登守成政等成田左近将監助と争進く力戦す安藤
左衛門尉直能坂部作十郎勝宣我死を覚悟
我会進則彼会退彼会退則我会進時
の失交換隊の長水野藤十郎忠清
伯耆守忠俊と事争奮戦す忠清敗走と
率く進撃す松平助十郎忠吉の家士三宅
一右衛門戦死す野呂瀬右馬丞
横田太郎三郎赤見彦右衛門大野佐左衛門雄川口
義右衛門宗重長屋右馬助正栄十左衛門と綱
取合戦勝右馬助正利世良左源太
利政力戦して首級あり松平左九郎忠一山口
山平次郎定国田辺平七郎同平十郎山崎助次郎
闘死す書記伯耆守忠俊と共に進て奮戦す
部会中根作左衛門正成苦戦して傷を受ける村
作左衛門正長松平庄兵衛方宗右衛門勝重安藤
作十郎定智大久保半助長定同源三郎忠紀
井上左右助良弘彼此乱戦に来る

[illegible]長城城に於て我が徒[illegible]して新荻あり野一色
[illegible]毋[illegible]義大[illegible]長[illegible]光盛別而[illegible]水[illegible]田[illegible]を
[illegible]に於て三[illegible]郎松[illegible]義人我殘[illegible]も後の[illegible]大義[illegible]補
[illegible]成[illegible]自殺を斬て首級を[illegible]
[illegible]松平越中守定[illegible]部[illegible]小諸すく道路[illegible]
迂[illegible]と以て[illegible]城門より[illegible]定[illegible]勝[illegible]奮
擊て斬獲の功あり[illegible]信濃守定[illegible]
力戰して首級を[illegible]部[illegible]戸田[illegible]
[illegible]宗[illegible]に於て良保駒井右京[illegible]田次郎[illegible]
[illegible]伯[illegible]我功あり[illegible]水[illegible]次郎[illegible]

苦[illegible]奮鬪[illegible]渡[illegible]
[illegible]田[illegible]八郎[illegible]松
[illegible]郎[illegible]信[illegible]劍[illegible]大
[illegible]郎[illegible]伯[illegible]次[illegible]
[illegible]郎[illegible]郎[illegible]井[illegible]戰死[illegible]次郎
[illegible]郎[illegible]成[illegible]部[illegible]奮戰[illegible]
傷[illegible]城[illegible]於[illegible]戰[illegible]軍[illegible]所[illegible]傷
[illegible]次[illegible]軍[illegible]長[illegible]
[illegible]甲[illegible]城[illegible]白[illegible]鎧[illegible]甲[illegible]
擊[illegible]自[illegible]を[illegible]人[illegible]刺殺[illegible]
[illegible]亮[illegible]馬[illegible]甲[illegible]

先ず南土政事を若し、力戦して部を呼び、
左衛門秀定一書貢を以て、一部獲る所
の乃敵首八十余級、安房守を生捕る、
馳駆して敵と鼓を進め戦ひしむ、信部の士
田中主殿川口長三郎八郎助十郎の家来福住
茂七郎、主人を去て知更元服、六郎安房
兵八郎右衛門十歳、兵法少栗平左衛門、西六郎
義忠弾九郎、及び多勝庵代神中、
勝水久世三四郎、庵宣加、凡三十郎、豊浦
刑部間、各相戦、遂に斬獲乃功あり、中山
勘解由、熊谷山田十郎、主利、軍使の功あり
初　神君井伊兵部少輔乃為て　幕府
左右小屯して後を守る、井伊兵部少輔と
進て攻撃城を打破り戦して、官軍サ却
雲霧白旗を靡く、鄙厚の名を以て
進撃して敵を破る、大野修理亮、乃甲
斐を出て、遂に二人の旗幟を奪ひ、城を以為城
中に変ありと、顧て援を遣ハ、城中に火起
官軍勢小なりて、収入せり」○若しくは○切りに
名倉八郎、仕人、計十文字の御除と

御薙刀計にて黒糸の御胴丸尾の御羽織
召されたる上野介ら領同守教に梶野主馬八寸
ころ此駿河孔雀の馬隠と掛られたるに拖跡巾
乃御曽とハ侍に持せ更ひたる塚と巡視まふ八海
集成
御供ニ西ニ何も御先へ気拔の外御勢の大蔵
立入にて井上主計頭（于時十五郎）御馬乃前にて兼宝
植村出羽守同備前守三宅弥次右衛門酒井作右衛門
牧野又十郎安藤彦兵衛右に供奉して兼宝
井上ハ何もかしこに拘へて後ろに御先へと見ん

可申とて短く候て御先へ参て御本陣を拔
ありくし　伊りん〇芦田右衛門〇海〇集成ハ井上主計
安藤八右衛門（ほか）牧野又十郎三宅弥次兵衛
なりれ
冊義にて吉田左近へとハ拔て御物して西尾仁
左衛門討取し
御宿勘右衛門とハ野中右を討取し　剣葉兄弟〇〇
後軍にて御先の拍子とて何も急ぎ進む
義重主杉宮主押前て乗捕早くて馳進み
御後の後軍とて気を抜被取付て歩く軍も又
所存れハ残念に被存也　岩茶磨山へ参
まふ前へ気て御前へ被出　岩宣安ハ気を早

とてくらし今日思の外敵競く而已ん手々もなく
進居しゝ更浮ニゐる也へ約束して遠しハ泣とりかハ
出被成残多思召との御事也 剣葉紀并ニ天補〇茶臼記 ○坂日記
将軍家来り取いふ御對面 剣葉紀并天補
政事様と云未刻　大御所茶臼山御陣　幕下御
同所ニ御陣　幕下仰云味方得勝軍仕ぬ
被仰上　大御所仰云　幕下ハ秋御手柄也
御感悦之上より　幕下是ゟ還御 八〇剣葉紀并天補ニハ日のとゝに
申刻同城中大野修理亮治長村稲左近為使
茶臼山ゟ来る本多上野介方ゟ少三郎以浪人

不残討死今日姫君城中より出給ひて於ゝ御陣の内
秀頼并御母儀ニ外女中大野修理父子速水
甲斐守父子山里曲輪ニ有之金蔵籠給ふ 二日
秀頼并母儀命御助ゝ於ハ修理并同切腹
可仕旨則上野介より上知可有御赦免之幕下
可令言上ゝ為雖御及言旨を使被召頭後藤
庄三郎とゝゝ　政事様○論○異成○坂日記
家康日記ニ云母儀月見の櫓に迫る井伊掃部
本多を打手として安藤對馬守を監使として
大坂の城中にて大野修理亮秀頼の

命を明めんとて信長を信長の云れとして左命
と遠変すり事とせずと謂く敢て信長
を信長秀吉秀吉の下乃庶と図る
又云世日秀吉秀吉宮古信長院殿の御女
通称茶屋と乃御陣所に大坂乃城と
坂上樹院と云
○元寛日記に八月の中旬
山岸殿 井井寺の中おり方
お送西伝し後 入道中に八坂殿方面
武徳大成記云秀吉信長院殿と城後に登る自
裁せんとて走る甲斐乃国に勝敗八軍乃
常なり死生とは世に世に世に
秀吉信長と大野治現亮秀吉の難を救ん

とて諸方の城下乃山荘に住る秀吉及信長と
して旧廉乃中に入らむ事を甲斐乃国に集る
当時より世乃城郭悉焼亡と乃数乃軍士
或八討死しあるいハ自殺或八生捕
死して溺死して信烈して云者あり
御味方乃軍士京討捕る首凡一百四十四百
三十余級浮屠する元永田信長院殿と討死と
盛て寄せ日記○武徳大成記○後の編纂二万三千六百
九十二討捕と記○若之検選八日 乃軍函首四実検凡三万四千余級記
御味方と云戦死すり乃者 山岸京 云敵死之捕
秀吉乃男 山岸京 信法 之 信雄 乃者

太郎兵衛尉二郎右衛門　秋坂弥作千郎　山口
伊豆守　安芸治右衛門　神崎与五郎　大内
遠江守　高木主水正　藤中務丞　大内
林蔵助　大器九郎兵衛尉　前井弥七郎　水野
隼人正　石川藤中務丞　松平元九郎　松平
助十郎　紫田平七郎　同平千郎　山口小平次
山崎助十郎　青木弥右衛門　藤中の士　諸院
肢数二十郎　松倉新人　別所主水　野一色新兵衛
大谷兵庫　石田左吾　奮戦して死す　○武徳大成記
（紫田平七郎　紫田平七郎作　山崎助十郎と助次郎作）

石川右衛門　大谷吉継　神保右馬丞
左右を顧みず　玉造口より向つて　喊つよりて
接戦して首級を挙げ　佐竹義宣　手を接
又之を貫き　斬る其軍人今を犯さを以て　遠と称して
去る　石川義八四字八丈山崎語京上原　武徳大成記
（横ちて世に名あり）
神保右馬丞　小笠原信濃守　同大学助　陣営
山崎助十郎　作兵衛　長施茅院　と云ふ　浦秀政
戦死を惜まられ　人の病を尋ね　伝法
八人　寛永年　二十二歳　没す　（編年集成○武徳大成記　伊達の名と）

此夜　公陣于茶屋山　大樹陣于岩山　御年譜○寛永記○武徳大成記○信士軍記

八日

秀頼自殺　即日　公出茶屋山入洛　御年譜○創業記秀吉補年の比　公茶屋山と御立入夜二條城へ御越入と云々○寛永日記○寛永○寛永記○寛永記○武徳大成記○長日記○元寛日記○坂日記○茶之通記○武徳大成記

政事録云辰刻片桐市正使者言上云秀頼并
淀殿御母儀自殺之外完意之旨二ツ九章曲輪引籠
候由　幕府御使として安藤對馬守秀頼
并淀殿之外第曲輪竜雲院江切腹申付
被仰付之云々午刻并御母儀之外秀頼母子之外

善処の族悉く切腹申付被仰付之云々　秀頼自
害之時同時自害之人数一位右大臣秀頼　二十三
御母天淀殿　大野修理大夫治長　同信濃守　修理婚男
建部内匠頭　同長門守　同長蔵　十三　渡辺内蔵助　二十六　竹田
宗蔵助　村木源兵衛　武田右京亮信吉　十三　同主馬　十五
二条城　十三　備前八郎左衛門　小宮
内蔵丞　伊藤左近将監　小宮
豊後長意　松平薩摩守　片桐長十郎　雲光
和泉守　伊勢国司　大蔵卿　大野修理亮　於大庭局
右京之亮　秀頼乳母　木村長門守母　於玉方　陽川

[illegible]二位局 [illegible]毎一人[illegible]
[illegible]ハ仲命し[illegible]
豊前守同動前田氏家内[illegible]人[illegible]
[illegible]中務監
[illegible]中宮平[illegible]三田大亮十二歳[illegible]
[illegible]ル又於[illegible]
実検[illegible]田左[illegible]亮ノ首[illegible]
[illegible]前監[illegible]前大野道[illegible]
首越前[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新[illegible]元毛利
大[illegible]不[illegible]田公[illegible]
○[illegible]
右[illegible]

京[illegible]摂津成[illegible]二条[illegible]不[illegible]
[illegible]
[illegible]

九日

大樹還入伏見城 御年譜○家忠日記○政事源○創業記考異補
義豊主形宣主同く海陸と記○永井右近記○義元
通鑑○言継卿記○言経卿記○言経日記○元寛日記○四系異○板倉記○海内集成八日記
○武徳大成記

海内集成云 台徳公関ヶ原乃佳例とて凱歌
行ひ給ふ軍神を送り血祭ありて西山
伏見の城く御凱旋 八日ニ御 ○言経日記○板倉記
大坂金銀可改為安芸守毛利秀元伯耆守吉川広家
備中守宇喜多秀家の麾中大坂より二条の城くゆらを西
海内集成

秀頼の妾腹の男子なりしを麾中に保して
京極若狭守高次乃母常高院乃許へ送り
を領内刑部源右衛門に預置て国松と
称し去る七歳小及しり秀頼公に起附り
常高院より右の寡婦とたのむ浅田中六郎
並大坂金銀を支配とて宗徳寺に
お源国松丸と秀頼の許へ送り海内集成
あるべく今度落城の時秀頼の中へ入
十歳迄の小児とハ撰く切殺さる京手板金
より稲葉正成海内集成○稲葉秀頼母子ハ自殺せしと言伝
秀頼母子ハ自殺せしと言伝

十日

右徳川二条の城へ渡御遊ばされ
家康公御参内御対面軍中之儀
式事終て公義野伊豆守殿被仰渡
御書院へ御出ゆ　元寛文九年○海録集成
政事終て公義野伊豆守殿被仰渡
御書院へ御出ゆ　元寛文九年○海録集成
御使ヲ以て松平右京大夫殿
但ヲ以て今度御発足信玄之新御
被仰但ヲ以て奥人上田宗右衛門大隅ヲ以
御名代ヲ以て右御前へ奥人
且御示被仰命励武威神妙之段御感　○海録集成
とゝ云々○切り紙○武徳大成記
蔵書ヲ虎上系ヲ虎伝記
越前ヲ初め重々八代の御ん
休処ヲ遂ゲ出席あるべく　上意
依て上壇より一重下御たゝ方
ら○之分初ヲ虎政八幼稚ヲ御たゝ方
二人牛ヲ乗て右おらるゝ
向ヲ越ヲ初ヲ七日の駿義ヲ仕板部ヲ
て秘義の御縁ヲ有ヲ幼弱御渡
小生補二人迷宮大功ヲ仕やと

上意ありしかハ庭中頓首謝罪仕りけり来席
ゟ松平伊与守方ゟ呼ニ参り
呼つりあふ　神君ハ御出迎ひ候すと言葉より
系図ハ人誤りし今度自己を降き接華の功
感慨の余と伊あり　為ニ再ハ恵賜を乞く
汝ハ父中納言秀康卿なりと謂て汝
又大坂の城を攻取て功績抽英烈天に
孰か是を降らん最感賞を授らるゝとい
家の誉なり　卿て之を及もに南蛮の孫
乃来る立汝の苗裔逆の外ハ男子跡異ある

ハ御遺物を蒙ふ恩賞ハ追て御沙汰あ
先之験ふとて　神君の茶入を給ふ　古徳公是を
伝取次ありて大重に接せられなり者又
是ハ御勅を以早速天下平均ニ属て依く
賞の験ふとて　東宮の服を　古徳公御手自
是を与へ給ふ　神君又汝の父秀康卿朱印の
書簡の士を招集ると以今度天下の再興を謀る祝
乃大功と達るに出ハ汝下と哀憐すくし
御使ありて　東宮成重様田を賜ると云て
茶壺を賜りて主ゟ一百石乃

郎ゝ与力の士を隊一百石ゝを附属すゝき旨命を
られたる多伊豆守宮内を始め軍功を大小称誉ゝ
ゝ（越ゝ奉長　後ゝ集成　後ゝ集成）
庚子の二月筑紫上野介義を入て夢窓ゝ子
主水一時七日細川城中ゝ藤ゝ高ゝ功名を
遂ゝる旨言上ゝ八夢窓ゝ日　神君（後ゝ集成）
すゝと許ゝる　後ゝ集成
阿波ゝ国ゝ七日の軍味方ゝ敵の別
洲り踏止りゝ功ハ抜群と謂ゝ洲り天正十八
庚寅小田原攻の時大坂笑ゝ藤ゝて酒匂川の

伏ゝ大功を顕ゝ人ゝ般ゝ也ゝ功ゝ度也
洲ゝ分阿波阿国ゝ七葉ゝ時小隊の指ゝ伊豆
の奮戦乃城主時退ゝ引組討ゝ敵ゝ戦
関ゝ原の役ハ野ゝ方ゝ仕ゝ隊ゝ
功名を遂ゝ天正の末ゝ軍稀ゝて関ゝ原
以来干戈治ゝ万ゝ洲ゝ分若ゝ度の軍功ハ
往年宣夜合戦ゝ時生涯ゝ十度二十度
ゝ勇戦を顕ゝ人ゝ都て高禄ゝ
厚ゝ御褒詞を蒙ゝ云　後ゝ集成

十一日

捕長曾我部盛親御年譜○創業記考文補長曾我部右衛門大夫元親
嫡子○永禄六年記○海老集○元亮日記九月条
八幡辺ニ於テ長曾我部英次郎ヲ中川右衛門尉
生捕ル由伝聞ス正伝ニハ上方ニ達セザルヲ
ヲ長曾我部ヲ長坂ニ賜フ○武徳大成記
改事ハ長曾我部ヲ捕ル高山右近ハ八幡辺ニ
ハ元虜ニ二条ノ御所西御門ニ長曾我部
嗣ニ伝ハル○加賀藩
長曾我部ハ中川宗右衛門ハ此朝近辺ニ
ヲ義ヲ感セラレ婿ニ長ヲトスベキヲ
ヲ賜フ○海老集
高山右近ハ命シテ和田ヲ入テ大坂ノ
残党ヲ尋探ラシメ元和元年ニ至ル未発ニ
ヲ以テ監使ヲ
孫次郎ハ多賀ヲ同ジ
尋探ル○海老集○武徳大成記

十二日

今度大坂乃為人国々ヘ欠落ノ者ヲ
取ニ参ル出代ヲ使人地所ヲ作ル

秀郷の孫長女七歳自乗極楽院を捕て注進
改り孫

海子集成云承極楽院を右京すり秀郷乃
長女僅八歳なるを伏て乳母浅八成田
の弓馬助の娘くりを天樹院殿の方へて
養育ありて成長の後尼となす鎌倉松ヶ巻
東夷の任職として天秀和尚と称

十二日

中川内膳正寺沢志摩守乗則出仕前今度
御合戦ふ逢支仍遠国を念じ申と言上 改り孫
○切り紀

十三日

○海子集成八今日より寒中に入ると
ある

将軍秀忠公より二条の城へ出仕 切り紀○芝居
日記○海子集
成

十四日

京より諸人貢六百余相乗来今日大仮所
水尻石垣を二条御所を近小出し居る所へ諸人
京へ国へ則被仰付夜壱和尚を討手を
を八ツ石垣を云悪徒へ合戦寄手三人切
伏戦死則石垣を貢西御門前へ晒す 改り孫○
海子集成○武徳大成記 切り紀○

岩佐右之丞書赤穂
十人半ヶ条上京して
浦山和尚の命ゆ
ゆゆ検使と
執事の許
石田
乃養
宥し
励し
大野
故也三条八聊も罪すくさなすゝ
退くゝゝゝ御使あり
なり 海内集成

十六日

今日長府我部
泉首於二条河原
英東寺辺泉首
紀長浪人新
京於
長上

新宮を不立ゝ去年七月頃より二機之企国煩
ゝを以也彼ゝ彼会所堺内主水ゝ云者大坂の
脈者と刑部々の与輔佐ゝ等て東城際小出ゝ
なりゝと等なり茶臼山ゝ送りなりゝ大坂ゝ
依ゝ兄ゝ死を聞あらん京都ゝ源伯主水ゝ願
とゝ大坂ゝ入ゝ等ゝ元道暦○海ゝ集成堺内
主水氏ゝ伝聞井伝の内ゝて
大坂ゝ場大坂の士となるゝ記十六日のゝゝ

十九日

幕下自伏見後御二条御石大御所ゝ日ゝ還
御手駕府ゝ　和軍来作云八月廿日御延引あり

百度使注進御使注進ゝ彼作ゝ
八月廿日御立京ゝ彼作ゝ海ゝ集成ゝ
廿日

捕大野道見　御年譜○寛永日記○剣書紀考異補○永井家記
武徳大成記　○寛永道暦○海ゝ集成堺人野乃介ゝ小林主殿乃之捕ゝ紀
政事録ゝ大野ゝ於大佛辺生捕ゝ　○板倉記
同○寛永記
三田右馬之佐毒ゝ記ゝ作ゝ
捕ゝ元上京人全ゝ
服部所ゝ別御前ゝ
竹田永翁ゝ首作ゝ
板倉記○寛永日記○海ゝ集成

武徳大成記○海ゝ集成

廿一日

捕秀頼兒　御年譜○寛永日記○剣業記考異補○永井伝右記○寛元通鑑○元和日記○坂口記○海内集成

政重孫云秀頼息男　国松及伝左衛門八歳　農人橋乃辺ニ居ス先行則捜シ出シ捕ル　○武徳大成記

中国ニ関ル徳大将軍秀忠ヲ奉ル大坂城の若ス[illegible]軍勢ヲ国々ニ向ハ自分ハ京ニ残ル諸家ニ不参ス[illegible]寛元通鑑

細川越中守海外稲葉丹後守長岡式部　初八与大名ヲ従ヘ[illegible]ヲ貢ス秀頼ハ越中守ニ二男ヲ[illegible]又ハ不和ニテ[illegible]義孫ヲ海内集成

廿二日

将軍家二条の御所ヲ[illegible]御軍法手引　幕下還御政重孫○海内集成

木村秀頼ハ息男六歳河内乳母男田中八左衛門同時誅ル　乳母被赦命　政重孫○坂口記○海内集成ハ若ハ[illegible]ヲ国松丸ト養育ス寛永[illegible]

今度大坂ニ於て討捕首数ヲ進ル[illegible]

一万四千百三十余級世間　西ハ御藤原ル

健士ヲ始る首級二百九千余ヲ[illegible]　海内集成

廿四日

後花園三帝御前ニ於テ大坂金瓶城ヲ攻ル
彼御台 政子ノ孫○頼日記○海道集成ハ大坂の城中金瓶ニ孫
ハ〻焼死ス金瓶ヲ攻ル者ハ焼死ス命ヲ奪ル
ト記

廿七日
相模康勝遠江ニ卒ス二十八歳 御年譜○寛政重修諸家譜○永六年
日記○政子ノ孫ナリ海道記○武徳大成記○寛日記○坂

廿八日
井伊掃部頭花園殿ニ参ス 参府ニ御前ニ金瓶ノ
洞ニ死賜ヒシヲ上ニ知リ奉ラル為ニ出仕候
彼御台ハ今度大坂表六日七日合戦動ク依也

政子ノ孫○海道集成○家康日記○虎
関ヲ出ル 関六月十九日花園殿参内ス虎
関ヲ出ル 政子ノ孫 ○武徳大成記
御ト呼テ賜ル 右徳川殿ハ
御所ニ参ス 参内ス 御所ニ参ス 加賜ヲ
ル 虎関ヲ出ル 参内ス 加賜ヲ
虎関ヲ出ル 参内ス 加賜ヲ
虎関ヲ出ル 参内ス 加賜ヲ

海の役ハ本多佐渡守殿ハ退去しなり
利源〻若年〻と云大脇抜者にて有事の時
揚て曰ハ渡と性先しとの御使ハ出利源の得職る
り如〻先達ハ右と有もしも西国へ壁へ拒ん
軍功を謂さんを待遇なり其上ハ世に後信
へきを不可ふ可く述る事共
右義那氏として豪気凛〻たり　神君
厳敵大ふ和ふ和ハ既ふ疑を遺ずるを待ハ
大脇頼貴して退西伝ハ大脇の人傑と共
称す海の集成

海の役ハ本多佐渡守殿ハ退去しなり
利源〻若年〻と云大脇抜者にて有事の時
揚て曰ハ渡と性先しとの御使ハ出利源の得職る
り如〻先達ハ右と有もしも西国へ壁へ拒ん
軍功を謂さんを待遇なり其上ハ世に後信
へきを不可ふ可く述る事共
右義那氏として豪気凛〻たり　神君
厳敵大ふ和ふ和ハ既ふ疑を遺ずるを待ハ
大脇頼貴して退西伝ハ大脇の人傑と共
称す海の集成

海の役ハ本多佐渡守殿ハ退去しなり
利源〻若年〻と云大脇抜者にて有事の時
揚て曰ハ渡と性先しとの御使ハ出利源の得職る
り如〻先達ハ右と有もしも西国へ壁へ拒ん
軍功を謂さんを待遇なり其上ハ世に後信
へきを不可ふ可く述る事共
右義那氏として豪気凛〻たり　神君
厳敵大ふ和ふ和ハ既ふ疑を遺ずるを待ハ
大脇頼貴して退西伝ハ大脇の人傑と共
称す海の集成

廿九日

田中筑後守自関元氣ゟ依く遣ス故おせし

遅引 改ゟ脇〇切り紙返ス ゟ 余り遅りとゝ

内閣印書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan